

Ⅲ 専門科目

Ⅲ-ⅰ 看護学分野

病態機能学特論	1	母子看護学特論演習	71
病態機能学特論演習	3	周産期看護学特論演習	75
基礎看護学特論	8	周産期看護展開論Ⅰ	78
基礎看護学特論演習	10	周産期看護展開論Ⅱ	80
看護管理特論	13	周産期看護展開論Ⅲ	82
看護管理特論演習	16	周産期看護展開論Ⅳ	85
地域保健行政看護学特論	20	周産期看護実習Ⅰ	88
地域保健行政看護学特論演習	22	周産期看護実習Ⅱ	90
家族・在宅看護学特論	25	周産期看護実習Ⅲ	92
家族・在宅看護学特論演習	27	母性看護学課題研究	94
成人看護学特論	30	精神看護学特論Ⅰ	96
成人看護学特論演習	32	精神看護システム特論	99
老年看護学特論Ⅰ	35	精神看護学特論演習	102
老年看護学特論演習	37	精神機能学特論	106
老年看護学特論Ⅱ	40	精神看護学特論Ⅱ	108
老年看護学特論Ⅲ	43	精神看護学特論Ⅲ	111
老年看護学特論Ⅳ	45	精神看護学特論Ⅳ	113
老年看護学特論Ⅴ	48	精神看護展開論Ⅰ	115
老年看護展開論Ⅰ	51	精神看護展開論Ⅱ	118
老年看護展開論Ⅱ	55	精神看護学実習Ⅰ	121
老年看護学実習Ⅰ	58	精神看護学実習Ⅱ	123
老年看護学実習Ⅱ	60	精神看護学実習Ⅲ	125
老年看護学課題研究	63	精神看護学実習Ⅳ	127
母子看護学特論	65	精神看護学実習Ⅴ	129
周産期看護学特論	67	精神看護学課題研究	131
女性生涯看護学特論	69	看護学特別研究	132

授業科目	病態機能学特論		科目英語表記	Advanced Pathophysiology for Nurses		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 前田 邦彦 教授 遠藤 和子					
科目責任者氏名	前田 邦彦					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	CNS必修			
授業形態	講義	開講時期	通年	単位数	2単位	
授業概要	組織、細胞、遺伝子レベルで生じている病的現象が、身体機能の逸脱や様々な臨床症候をひきおこすメカニズムについて、最新の知見を含めて、教示する。さらに、そのようなメカニズムに基づく効果的な看護援助方法について、考察する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織、細胞、遺伝子レベルで生じている病的現象の特徴をライフサイクルから理解できる。 ・各種疾患の発症とその経過における組織、細胞、遺伝子レベルで生じている変化を説明できる。 ・各種病態の病態に基づき、臨床症状や身体所見、検査所見などを理解できる。 ・各種疾患における組織、細胞、遺伝子レベルで生じている現象を踏まえて、効果的な看護援助方法を検討できる。 					
成績評価方法	方針：受講態度（予習・復習の状況、授業への意欲）と課題レポートで評価する。 方法：討議と課題レポートの提出、その内容を総合的に評価。 基準：講義内容の理解と各到達目標について評価する。					
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない					
授業形式	対面もしくは遠隔授業（受講生とも相談の上、決定します）					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	ライフサイクルと病態	発生異常、成長・発達の障害、老化、個体死	聴講（講義）・ディスカッション	授業全体を通して、医療・医学についての社会的事項についてもつねに関心をもち、新聞や雑誌等で最新の情報にふれるように心がける 事前提示資料を読んでおく	前田	
2	フレイル・サルコペニア	定義、頻度、疾病との関係、生命予後	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
3	炎症の病態と生活習慣病	炎症のプロセス、急性炎症・慢性炎症の病態、炎症の修復起点、免疫反応の成り立ち、生活習慣病との関係	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
4	炎症の病態と生活習慣病	炎症のプロセス、急性炎症・慢性炎症の病態、炎症の修復起点、免疫反応の成り立ち、生活習慣病との関係	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
5	生活習慣病の病態とメカニズム	虚血性心疾患、心不全、高血圧症、動脈硬化症、COPDなどの慢性呼吸器疾患	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
6	生活習慣病の病態とメカニズム	虚血性心疾患、心不全、高血圧症、動脈硬化症、COPDなどの慢性呼吸器疾患	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
7	感染症の病態とメカニズム	各種感染症の感染経路と伝搬、各種感染症の病原体と病変の特徴、感染症の傾向と対応、新興感染症	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	
8		各種感染症の感染経路と伝搬、各種感染症の病原体と病	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田	

		変の特徴、感染症の傾向と対応、新興感染症			
9	腫瘍の病態とメカニズム	腫瘍の発生・進展、分類と特性、予防・早期発見・治療	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田
10	腫瘍の病態とメカニズム	腫瘍の発生・進展、分類と特性、予防・早期発見・治療	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田
11	褥瘡の病態とメカニズム	発症のメカニズム、診断と分類、対応	聴講（講義）・ディスカッション	事前提示資料を読んでおく	前田
12	日常的に遭遇する疾患の病態から考える看護援助①	糖尿病患者に対する看護実践に必要なアセスメント。援助方法	成人看護学実習室で行います。聴講（講義）・ディスカッション	受講生の状況に応じて事前に指示します。講義に関連した臨床上の問題意識をプレゼンできるようにして来てください	遠藤和子
13	日常的に遭遇する疾患の病態から考える看護援助①	糖尿病患者に対する看護実践に必要なアセスメント。援助方法	聴講（講義）・ディスカッション	受講生の状況に応じて事前に指示します。講義に関連した臨床上の問題意識をプレゼンできるようにして来てください	遠藤和子
14	日常的に遭遇する疾患の病態から考える看護援助②	心不全患者に対する看護実践に必要なアセスメント。援助方法。	聴講（講義）・ディスカッション	受講生の状況に応じて事前に指示します。講義に関連した臨床上の問題意識をプレゼンできるようにして来てください	遠藤和子 スポット：山形県立中央病院 重症・集中専門看護師 門馬康介
15	日常的に遭遇する疾患の病態から考える看護援助②	心不全患者に対する看護実践に必要なアセスメント。援助方法。	聴講（講義）・ディスカッション	受講生の状況に応じて事前に指示します。講義に関連した臨床上の問題意識をプレゼンできるようにして来てください	遠藤和子 スポット：山形県立中央病院 重症・集中専門看護師 門馬康介
日付					
後日連絡					

教科書	特定の教科書は指定しないが、授業の前に事前に決められた英文論文を精読することが必要である。
参考書	参考図書や文献については講義の中で随時紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	前田邦彦：公立置賜総合病院 kunihiko.maeda@okitama-hp.or.jp (0238-46-5000(代)) 遠藤和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp (686-6644)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・討議形式の講義をこころがけるので、能動的、積極的な姿勢で講義へ参加すること。 ・多くの事柄を関連づけて論理的にわかりやすくまとめることができるように心掛けること。

授業科目	病態機能学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Pathophysiology for Nurses		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 前田 邦彦				
科目責任者氏名	前田 邦彦				
学内連絡教員氏名	遠藤 和子				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	現代の高度に専門化した医療に対応しうる、より専門性の高い看護師や看護学研究者の養成においては、対象となる疾病についての、病因、病態生理、疫学、分子機構、治療戦略などについて広い視野からの理解とそれを基盤とした応用が重要となる。そのような意味から、本講義では、様々な悪性腫瘍、各種生活習慣病、感染症などを主題とした演習を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な生活習慣病について、疫学、病理学的特性、治療の実態などを総括・評価できる。 ・様々な悪性腫瘍について、実際の診療の現場での対応を理解し、評価」できる。 ・各種感染症における最新の情報を取得し、原因病原体、宿主の免疫応答を理解できる。 ・毎回の講義の前に、指定英文論文を事前に精読しておくことにより、英文論文を読む習慣を身につけ、内容を的確に理解し、その内容を総括・批評できる。 				
成績評価方法	<p>方針：受講態度（事前の英文論文精読などの予習の状況、授業の参加態度）と課題レポートで評価する。</p> <p>方法：討議と課題レポートの提出、その内容を総合的に評価。</p> <p>基準：講義内容の理解と各到達目標について評価する。</p>				
成績評価基準	<p>各到達目標について、</p> <p>特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる</p> <p>優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる</p> <p>良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない； 説明できない</p>				
授業形式	対面もしくは遠隔授業、学外（病院等）で実施する場合があります。（受講生とも相談）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関しての専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関しての専門的理解を高め、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
2	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関しての専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦

	病に関する専門的知識を身につける。	などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理解を拡げ、最新の知識を身につける。			
3	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理解を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
4	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理解を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
5	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理解を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
6	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦

		解を拡げ、最新の知識を身につける。			
7	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
8	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
9	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦
10	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。	本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を拡げ、最新の知識を身につける。	ゼミ形式での討議を主体とする。	情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。	前田邦彦

11	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。</p>	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を身に付ける。</p>	<p>ゼミ形式での討議を主体とする。</p>	<p>情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。</p>	前田邦彦
12	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。</p>	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を身に付ける。</p>	<p>ゼミ形式での討議を主体とする。</p>	<p>情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。</p>	前田邦彦
13	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。</p>	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を身に付ける。</p>	<p>ゼミ形式での討議を主体とする。</p>	<p>情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。</p>	前田邦彦
14	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。</p>	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的知識を身に付ける。</p>	<p>ゼミ形式での討議を主体とする。</p>	<p>情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要である。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。</p>	前田邦彦
15	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉</p>	<p>本県で罹患率の高い生活習慣病（高血圧、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）、悪性腫</p>	<p>ゼミ形式での討議を主体とする。</p>	<p>情報・資料の検索・取得が重要となるので、情報源やサイトなどの事前準備が必要であ</p>	前田邦彦

<p>塞性肺疾患など)、悪性腫瘍、各種感染症などに関して、その特性や状況を理解し、対応を考察する。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）を収集・精読し、当該疾病に関する専門的知識を身につける。</p>	<p>瘍、各種感染症などに関して、その罹患状況、検査・診断法、治療や予後、効果的な予防法について、県内の保健医療施設におけるデータや公表された資料、検索しえた文献等を用いて、解析・検討をおこない、結果について総括をする。また、これらに関連する文献（とくに英語論文）などについて、広く収集し、当該疾病に関する専門的理解を拡げ、最新の知識を身につける。</p>		<p>る。また、情報の評価に際しては、統計学の基盤も必要である。さらに日本国内にとどまらず、海外の文献や情報にもアクセスする予定なので、英文の文献等に関して、その内容や疑問点などについて、授業以外にも学習するように心掛けること。</p>	
日付				
後日連絡				

教科書	特定の教科書は指定しないが、授業の前に事前に決められた英文論文を精読することが必要である。
参考書	参考図書や文献については講義の中で随時紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	前田邦彦：kunihiko.maeda@okitama-hp.or.jp 公立置賜総合病院(0238-46-5000代) 遠藤和子・kaendo@yachts.ac.jp 研究室13 (686-6644)
備考	

授業科目	基礎看護学特論	科目英語表記	Advanced Fundamental Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 沼澤 さとみ				
科目責任者氏名	沼澤 さとみ				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	基礎看護学領域（看護実践・看護倫理・看護教育）に関する理論や概念について学習する。 看護実践・看護倫理・看護教育で課題となっている事柄について学習する。				
到達目標	1. 基礎看護学領域（看護実践・看護倫理・看護教育）に関する理論や概念について説明できる。 2. 看護実践・看護倫理・看護教育で課題となっている事柄について考察できる。				
成績評価方法	プレゼンテーション・ディスカッションへの取り組み状況（60%）：目標1・2を評価 レポート（40%）：目標2を評価				
成績評価基準	到達目標1・2について、プレゼンテーション・ディスカッションへの取り組み状況とレポートをもとに以下の基準で評価する 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	授業の進め方 文献検索の方法	講義・ディスカッション		沼澤
2	基礎看護学領域（看護実践）の基盤となる概念や理論	看護実践におけるコミュニケーション、共感、健康の概念、自立、ヘルスリテラシー等のなかからいくつか取り上げる	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
3	基礎看護学領域（看護実践）の基盤となる概念や理論	看護実践におけるコミュニケーション、共感、健康の概念、自立、ヘルスリテラシー等のなかからいくつか取り上げる	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
4	基礎看護学領域（看護実践）の基盤となる概念や理論	看護実践におけるコミュニケーション、共感、健康の概念、自立、ヘルスリテラシー等のなかからいくつか取り上げる	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
5	基礎看護学領域（看護実践）の基盤となる概念や理論	看護実践におけるコミュニケーション、共感、健康の概念、自立、ヘルスリテラシー等のなかからいくつか取り上げて学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
6	基礎看護学領域（看護倫理）の基盤となる概念や理論	看護倫理に関連する概念である意思決定支援、アドボカシー等について学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
7	基礎看護学領域（看護倫理）の基盤となる概念や理論	看護倫理に関連する概念である意思決定支援、アドボカシー等について学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤

8	基礎看護学領域（看護倫理）の基盤となる概念や理論	看護倫理に関連する概念である意思決定支援、アドボカシー等について学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
9	基礎看護学領域（看護倫理）の基盤となる概念や理論	看護倫理に関連する概念である意思決定支援、アドボカシー等について学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
10	基礎看護学領域（看護教育）の基盤となる概念や理論	看護教育におけるリフレクション・キャリア形成・キャリア支援、熟達化などについて学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
11	基礎看護学領域（看護教育）の基盤となる概念や理論	看護教育におけるリフレクション・キャリア形成・キャリア支援、熟達化などについて学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
12	基礎看護学領域（看護教育）の基盤となる概念や理論	看護教育におけるリフレクション・キャリア形成・キャリア支援、熟達化などについて学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
13	基礎看護学領域（看護教育）の基盤となる概念や理論	看護教育におけるリフレクション・キャリア教育、熟達化などについて学習する	講義・プレゼンテーション・ディスカッション	学習課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
14	看護実践・看護倫理・看護教育の動向と諸課題	第13回までの授業で取り上げた学習内容から、課題となっている事柄を取り上げて学習する	プレゼンテーション・ディスカッション	取り上げた課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤
15	看護実践・看護倫理・看護教育の動向と諸課題	第13回までの授業で取り上げた学習内容から、課題となっている事柄を取り上げて学習する	プレゼンテーション・ディスカッション	取り上げた課題に関する文献や図書を読む/資料作成	沼澤

日付

教科書	なし
参考書	随時紹介する
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	基礎看護学特論演習		科目英語表記	Advanced Seminar on Fundamental Nursing	
職名、担当教員氏名	教授・沼澤 さとみ 准教授・半田 直子 准教授・高橋 直美				
科目責任者氏名	沼澤 さとみ				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年／博士後期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	基礎看護学特論で学習した理論や概念等を踏まえて、学生自身が取り組む研究課題や研究手法について学習する。				
到達目標	1. 文献検討から研究課題を明確にする。 2. 研究目的を達成するために適切な研究デザイン、データ収集・分析方法を検討できる。 3. 研究を行う上で必要な倫理的配慮の方法について検討できる。				
成績評価方法	ディスカッション 50%：目標1～3を評価 プレゼンテーション 50%：目標1～3を評価				
成績評価基準	目標1～3について、プレゼンテーションとディスカッションをもとに以下の基準で評価する 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	文献検索、文献クリティークの方法	講義 ディスカッション	文献検索、文献クリティークに関する予習	沼澤
2	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	関心領域に関する国内外の研究の動向	ディスカッション	関心領域に関する文献検索・収集、文献精読	沼澤
3	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する文献検討	ディスカッション	文献精読	沼澤
4	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する文献検討	ディスカッション	文献精読	沼澤
5	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
6	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
7	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
8	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
9	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
10	基礎看護学の関心領域に関する文献検討	研究テーマに関する先行研究のレビューと研究課題の明確化	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤

11	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
12	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
13	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
14	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
15	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
16	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	半田
17	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
18	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
19	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
20	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
21	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
22	研究デザインの検討	研究対象・データ収集・分析方法の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	高橋
23	研究デザインの検討	明確化した研究課題に応じた研究デザイン（研究対象・データ収集・データ分析）の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
24	研究デザインの検討	明確化した研究課題に応じた研究デザイン（研究対象・データ収集・データ分析）の検討	プレゼン・ディスカッション	文献精読	沼澤
25	研究の倫理的配慮	研究対象者やデータ収集に際しての倫理的配慮の検討	ディスカッション	倫理的配慮に関する文献や図書の精読	沼澤
26	研究計画書作成	研究の動機や問題意識の明確さ 研究テーマの具体性 研究目的・意義の明確さ 研究手法の適切さと実現可能性 研究の新規性と独自性 論理性のある記述	ディスカッション	研究計画に関する図書等の精読	沼澤
27	研究計画書作成	研究の動機や問題意識の明確さ 研究テーマの具体性 研究目的・意義の明確さ 研究手法の適切さと実現可能性 研究の新規性と独自性 論理性のある記述	プレゼン・ディスカッション	研究計画に関する図書等の精読	沼澤
28	研究計画書作成	研究の動機や問題意識の明確さ 研究テーマの具体性 研究目的・意義の明確さ 研究手法の適切さと実現可能性 研究の新規性と独自性 論理性のある記述	プレゼン・ディスカッション	研究計画に関する図書等の精読	沼澤
29	研究計画書作成	研究の動機や問題意識の明確さ 研究テーマの具体性 研究目的・意義の明確さ	プレゼン・ディスカッション	研究計画に関する図書等の精読	沼澤

		研究手法の適切さと実現可能性 研究の新規性と独自性 論理性のある記述			
30	研究計画書作成	研究の動機や問題意識の明確さ 研究テーマの具体性 研究目的・意義の明確さ 研究手法の適切さと実現可能性 研究の新規性と独自性 論理性のある記述	プレゼン・ディスカッション	研究計画に関する図書等の精読	沼澤
日付					

教科書	特に指定しません
参考書	授業に必要なものは自分で探してください。 研究方法、研究倫理、研究計画に関する文献や書籍は随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 半田：研究室3 nhanda@yachts.ac.jp 高橋：研究室21 ntakahashi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護管理特論	科目英語表記	Advanced Nursing Management		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 遠藤 良仁				
科目責任者氏名	遠藤 良仁				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護管理能力の向上を目指して、組織論、看護制度・政策論、医療経済や関連法規など看護管理に必要な知識について、具体的な例を提示しながら授業を展開する。				
到達目標	1. 病院の看護管理の基本的な知識を説明できる。 2. 現代日本の医療・看護を取り巻く状況とそでの看護管理者の役割を説明できる。 3. 看護の質向上のために果たすべき看護管理者の役割を考察できる。				
成績評価方法	プレゼンテーション50%：目標1・2を評価 ディスカッションへの参加度30%：目標1・2を評価 課題レポート20%：目標3を評価				
成績評価基準	<p>目標1・2について、プレゼンテーションとディスカッションをもとに以下の基準で評価します。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>目標3について、課題レポートをもとに以下の基準で評価します。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護管理の発展と定義	看護管理の歴史的背景と定義	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
2	組織論	組織の定義と特徴、組織行動 看護組織の構造と特徴	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
3	組織の調整と変革①	パワーとエンパワメント、コンフリクト	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤

4	組織の調整と変革②	交渉術、動機づけ理論、変革理論	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
5	リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷と特徴	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
6	看護管理の基礎	管理活動の基本、機能と展開	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
7	医療制度と医療経済	医療・看護の現状、医療経済	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
8	看護制度・政策	看護制度の歴史と政策決定過程	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
9	看護管理と人的資源管理①	看護職の需給の推移、人材確保	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
10	看護管理と人的資源管理②	人材育成、キャリア発達、労務管理	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
11	看護における業務管理	効率性、利便性を考慮した管理	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディスカッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の現状分析や課題を発見する	遠藤
12	看護における情報管理	情報管理とその活用、個人情報保護	プレゼンテーション・ディスカッション	国内外の社会情勢や医療の動向に関する情報や、授業内容に関する文献等を読む プレゼンテーションやディス	遠藤

				カッションのための学習をする 自身が所属する施設や部署の 現状分析や課題を発見する	
13	看護における安全管理	リスクマネジメント、看護管 理と法的責任	プレゼンテーション・ディス カッション	国内外の社会情勢や医療の動 向に関する情報や、授業内容 に関する文献等を読む プレゼンテーションやディス カッションのための学習をす る 自身が所属する施設や部署の 現状分析や課題を発見する	遠藤
14	看護の質の保障	質の評価指標と活用	プレゼンテーション・ディス カッション	国内外の社会情勢や医療の動 向に関する情報や、授業内容 に関する文献等を読む プレゼンテーションやディス カッションのための学習をす る 自身が所属する施設や部署の 現状分析や課題を発見する	遠藤
15	看護管理研究と展望	看護管理研究の傾向と今後の 展望	プレゼンテーション・ディス カッション	国内外の社会情勢や医療の動 向に関する情報や、授業内容 に関する文献等を読む プレゼンテーションやディス カッションのための学習をす る 自身が所属する施設や部署の 現状分析や課題を発見する	遠藤
日付					

教科書	
参考書	・井部俊子監修；看護管理学習テキスト第3版（全5巻・別巻），日本看護協会出版会，2024. ・小池智子他編集；看護サービス管理第5版，医学書院，2018. その他、随時紹介します。
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	遠藤良仁：y-endo@iwate-pu.ac.jp
備考	

授業科目	看護管理特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Nursing Management		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 遠藤 良仁				
科目責任者氏名	遠藤 良仁				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	前期に学習した看護管理特論での概説を元に、病院での看護管理活動の実践事例や文献を検討し、看護管理の課題や展望を探究する。				
到達目標	1. 病院の看護管理活動の実践事例や文献検討を通して、看護管理の課題を説明できる。 2. 現在の看護管理研究から、課題や展望を説明できる。 3. チェンジリーダーとしての看護管理者の役割と方法を考察できる。				
成績評価方法	プレゼンテーション40%：目標1・2を評価 ディスカッションへの参加度30%：目標1・2を評価 課題レポート30%：目標3を評価				
成績評価基準	<p>目標1・2について、プレゼンテーションとディスカッションをもとに以下の基準で評価します。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p> <p>目標3について、課題レポートをもとに以下の基準で評価します。</p> <p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合もあります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。（英文講読含む）	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
2	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。（英文講読含む）	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
3	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。（英文講読含む）	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
4	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。（英文講読含む）	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
5	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤

			国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)		
6	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
7	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
8	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
9	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
10	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
11	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
12	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
13	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
14	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
15	看護管理の実際	看護管理者の役割・機能等	看護管理の実践例についての学習に基づき、意見交換を行う。 国内外の看護管理の文献学習を行う。(英文講読含む)	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
16	看護管理研究	看護管理に関する研究の動向と課題	最近の看護管理研究の文献学習から、看護管理研究の動向や課題を調べる。 看護管理に関する自己の問題意識や課題を論理的に考察し説明する。	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
17	看護管理研究	看護管理に関する研究の動向と課題	最近の看護管理研究の文献学習から、看護管理研究の動向や課題を調べる。 看護管理に関する自己の問題意識や課題を論理的に考察し説明する。	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤

29	看護管理研究	看護管理に関する研究の動向と課題	最近の看護管理研究の文献学習から、看護管理研究の動向や課題を調べる。看護管理に関する自己の問題意識や課題を論理的に考察し説明する。	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
30	看護管理研究	看護管理に関する研究の動向と課題	最近の看護管理研究の文献学習から、看護管理研究の動向や課題を調べる。看護管理に関する自己の問題意識や課題を論理的に考察し説明する。	文献検索、収集、検討、プレゼンテーション準備、等	遠藤
日付					
後日連絡					

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・井部俊子監修；看護管理学習テキスト第3版（全5巻・別巻），日本看護協会出版会，2024. ・小池智子他編集；看護サービス管理 第5版，医学書院，2018. ・Bessie L. Marquis, Carol J. Huston；Leadership Roles and Management Functions in Nursing, Wolters Kluwer/Lippincott Williams & Wilkins. ・Eleanor J. Sullivan, Phillip J. Decker；Effective Leadership and Management in Nursing. その他、随時紹介します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤良仁：y-endo@iwate-pu.ac.jp
備考	

授業科目	地域保健行政看護学特論	科目英語表記	Advanced Community and Public Health Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 准教授 今野 浩之				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	地域保健を巡る情勢が大きく変化している現状を踏まえ、変化に対応した地域ヘルスケアシステム構築を探究できる看護の専門的能力を養うため、明治時代から今日に至る地域保健（衛生）行政及び保健師に関する歴史を詳細に教授する。また、今日の地域ヘルスケアの到達点と課題について教授する。				
到達目標	<p>1-1.明治時代から今日に至るに地域保健（衛生）行政の歴史の変遷を具体的に述べるができる。 キーワード：医制、衛生警察、社会事業/健兵健民政策としての公衆衛生活動、日本国憲法25条、保健所法から地域保健法へ、健康づくり政策、地方自治法改正と市町村への権限移譲、公衆衛生と人権、住民と協働した子育て支援・健康づくり・介護予防、地域包括ケアシステム</p> <p>1-2.上記の変遷と保健師の資格・教育・活動の関連を明確に述べるができる。 キーワード：保健婦規則、保健師助産師看護師法における保健師、保健師教育、地域保健対策の推進に関する基本的な指針及び保健師活動指針</p> <p>2-1.今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題を具体的に述べるができる。 キーワード：地域特性、ポピュレーションアプローチ/ハイリスクアプローチ、公助/共助/互助/自助、協働・連携、支援困難事例、感染症対策</p> <p>2-2.これからの地域ヘルスケアおよび保健師活動の展望について考察できる。 ※キーワードについては、履修者の職種により変更もあります。</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション作成資料（40%）：作成資料が到達目標について達成しているかを判断基準とします。資料作成の分担等については、授業のなかで指示します。 ・討議への参加（60%）：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。 				
成績評価基準	<p>到達目標 1-1～2-2</p> <p>特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる</p> <p>優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる</p> <p>良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる</p> <p>最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる</p> <p>目標に到達していない：説明できない</p>				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	プレゼンテーション方法について	講義	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
2	地域保健（衛生）行政の歴史	参考文献に基づいた検討	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
3	地域保健（衛生）行政の歴史	参考文献に基づいた検討	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
4	地域保健（衛生）行政の歴史	参考文献に基づいた検討	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
5	保健師の資格・教育・活動	保健婦規則	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
6	保健師の資格・教育・活動	保健師助産師看護師法における保健師	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
7	保健師の資格・教育・活動	保健師教育	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
8	保健師の資格・教育・活動	基本指針・活動指針	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
9	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到	地域特性	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野

	達点と課題				
10	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題	ポピュレーションアプローチ/ハイリスクアプローチ	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
11	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題	公助/共助/互助/自助	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
12	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題	協働・連携	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
13	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題	支援困難事例	プレゼンテーション、講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
14	今日の地域ヘルスケアにおける支援の到達点と課題	感染症対策	プレゼンテーション、講義、討議	全体のまとめ	菅原、今野
15	まとめ	これからの地域ヘルスケアおよび保健師活動の展望	討議	全体のまとめ	菅原、今野

日付

毎週月曜日 7 限目

教科書	
参考書	厚生省五十年の歴史（厚生省）、保健所五十年史（日本公衆衛生協会）、ふみしめて50年保健婦活動の歴史（日本公衆衛生協会）、衛生行政大要（日本公衆衛生協会）、国民衛生の動向（日本公衆衛生協会）、宮崎美砂子他編：最新公衆衛生看護学総論（日本看護協会出版会）、金子みつ編著：初期の看護行政（日本看護協会出版会） その他、随時紹介
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonna@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	地域保健行政看護学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Community and Public Health Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 准教授 今野 浩之				
科目責任者氏名	菅原 京子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	「保健医療福祉政策に基づいた地域/在宅看護活動」が真に住民とともにある活動であるために、さらには看護専門職としての自己の成長を図る上で、研究が果たす役割は大きい。本演習では、今日の地域/在宅看護活動に関する研究課題や研究プロセスについて探究する。				
到達目標	<p>1.地域/在宅看護活動の研究を行う目的と研究課題の特徴を具体的に説明できる。</p> <p>2-1.地域/在宅看護活動の先行研究を文献と照合しながら、研究目的、意義、方法、限界等の視点からクリティークできる。</p> <p>2-2.地域/在宅看護活動に有用な研究デザインについて考察できる。</p> <p>3-1.文献検討やディスカッションを通して自分の研究疑問と研究テーマを明確にできる。</p> <p>3-2.自分の研究テーマに合致した研究デザインと研究方法を明確にできる。</p> <p>3-3.倫理的配慮について検討できる。</p> <p>3-4.研究計画としてまとめることができる。</p> <p>4-1.自分の研究が地域/在宅看護活動にどのように寄与するかを説明できる。</p> <p>4-2.地域/在宅看護活動において研究が果たす意義を具体的に説明できる。</p>				
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション作成資料（40%）：作成資料が到達目標について達成しているかを判断基準とします。作成資料の分担等については授業の中で指示します。 ・討議への参加（60%）：討議の場面で、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているか、を判断基準とします。 				
成績評価基準	<p>到達目標 1～4-2</p> <p>特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる</p> <p>優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる</p> <p>良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる</p> <p>最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる</p> <p>目標に到達していない：説明できない</p>				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	オリエンテーション	演習の進め方、クリティークとは	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
2	なぜ研究するのか	研究を行う目的と研究課題の特徴	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
3	先行研究のクリティーク	地域/在宅看護活動の先行研究のクリティーク	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
4	先行研究のクリティーク	地域/在宅看護活動の先行研究のクリティーク	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
5	先行研究のクリティーク	地域/在宅看護活動の先行研究のクリティーク	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
6	研究デザイン	質的研究・量的研究・介入研究、地域/在宅看護活動に有用な研究デザイン	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
7	研究デザイン	質的研究・量的研究・介入研究、地域/在宅看護活動に有用な研究デザイン	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
8	研究デザイン	質的研究・量的研究・介入研究、地域/在宅看護活動に有用な研究デザイン	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野

9	研究デザイン	質的研究・量的研究・介入研究、地域/在宅看護活動に有用な研究デザイン	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
10	研究デザイン	質的研究・量的研究・介入研究、地域/在宅看護活動に有用な研究デザイン	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
11	文献検討	文献マップによる論理的検討	講義、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
12	文献検討	文献マップによる論理的検討	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
13	文献検討	文献マップによる論理的検討	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーションの準備	菅原、今野
14	研究疑問と研究テーマ	研究疑問と研究テーマの検討	講義、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
15	研究疑問と研究テーマ	研究疑問と研究テーマの検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
16	研究疑問と研究テーマ	研究疑問と研究テーマの検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
17	研究デザインと研究方法	研究デザインと研究方法の検討	講義、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
18	研究デザインと研究方法	研究デザインと研究方法の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
19	研究デザインと研究方法	研究デザインと研究方法の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
20	研究デザインと研究方法	研究デザインと研究方法の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
21	研究デザインと研究方法	研究デザインと研究方法の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
22	倫理的配慮	倫理的配慮の検討	講義、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
23	倫理的配慮	倫理的配慮の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
24	倫理的配慮	倫理的配慮の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
25	研究計画書	研究計画書の検討	講義、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
26	研究計画書	研究計画書の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
27	研究計画書	研究計画書の検討	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究テーマの照合	菅原、今野
28	研究計画書	地域/在宅看護活動への寄与	プレゼンテーション、討議	地域保健行政看護学特論演習と自分の研究の照合	菅原、今野
29	まとめ	地域/在宅看護活動において研究が果たす意義	討議	全体のまとめ	菅原、今野
30	まとめ	地域/在宅看護活動において研究が果たす意義	討議	全体のまとめ	菅原、今野

日付

毎週木曜日6-7限目

教科書	
参考書	Elizabeth T.Anderson ed : Community as Partner Theory and Practice in Nursing、研究デザイン-質的・量的・そしてミックス法（日本看護協会出版会、2011）、末武康弘他編著：主観性を科学する－質的研究法入門（金子書房、2017）、高木廣文・林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方（中山書店、2007）、よくわかる質的研究の進め方・まとめ方（医歯薬出版、2008）、宮崎美砂子他編：最新公衆衛生看護学第3版（日本看護協会出版会、2022）
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3

実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原京子：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 今野浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	家族・在宅看護学特論	科目英語表記	Advanced Family and Home Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子				
科目責任者氏名	桂 晶子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	核家族や高齢者世帯の急増などから、日本の家族は、多様化複雑化し、老老介護や介護負担の重圧など多くの課題を有している。また、社会情勢の変化を背景として、在宅療養者が増加している。国内外の文献をもとに家族と在宅療養者の現状と課題を検討し、在宅ケアにおける介護家族の特徴を踏まえ、家族看護と在宅看護の現状と課題を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する理論の特徴と活用方法を説明できる。 2. 日本における家族の現状と課題について歴史的変遷を踏まえて説明できる。 3. 国内外の文献をもとにした家族看護における看護の専門性と課題を考察できる。 4. 在宅療養者への看護の現状と課題を説明できる。 5. 在宅ケアにおいて看護の専門性を発揮するための課題を説明できる。 				
成績評価方法	家族看護 プレゼンテーションと討議 30%、レポート 20%（到達目標1、2、3を評価） 在宅看護 プレゼンテーションと討議 30%、プレゼンテーション資料 20%（到達目標4、5を評価）				
成績評価基準	到達目標1、2、4、5 特に優れている：資料・討議内容は極めて論理的かつ適切であり、取り組む姿勢も申し分ない。 優れている：資料・討議内容は論理的かつ適切であり、取り組む姿勢もよい。 良好である：資料・討議内容は概ね適切である。 辛うじて到達している：資料・討議内容の水準は目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない：資料・討議内容が不十分であり目標到達水準を満たしていない。				
	到達目標3 特に優れている：極めて論理的かつ適切・的確な記述内容であり、それを期限内に提出した。 優れている：論理的かつ適切・的確な記述内容であり、それを期限内に提出した。 良好である：概ね適切な記述内容であり、それを期限内に提出した。 辛うじて到達している：記述内容は目標到達に必要な最低限程度である。 到達していない：記述内容が不十分である、あるいは未提出である。				
授業形式	授業は原則対面にて行います。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	家族看護に関連した理論と活用方法	研究論文やテキストを活用した家族看護に関連した理論と具体的活用方法	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーションの準備	桂
2	家族看護に関連した理論と活用方法	〃	〃	〃	〃
3	家族看護に関連した理論と活用方法	〃	〃	〃	〃
4	家族看護に関連した理論と活用方法	〃	〃	〃	〃
5	日本の家族の現状と課題	歴史的変遷を踏まえた家族の現状と課題を統計及び文献を基にプレゼンテーションと意見交換	〃	〃	〃
6	日本の家族の現状と課題	〃	〃	〃	〃
7	日本の家族の現状と課題	〃	〃	〃	〃
8	家族看護における看護の専門性と課題	家族看護における看護の専門性について、国内外の文献を	〃	〃	〃

		基にプレゼンテーションと意見交換			
9	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
10	在宅ケアの現状と課題	歴史的変遷を踏まえた在宅ケアの現状と課題、看護の役割についてプレゼンテーション、討議	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーションの準備	鈴木
11	在宅ケアの現状と課題	〃	〃	〃	〃
12	在宅ケアの現状と課題	〃	〃	〃	〃
13	在宅ケアの現状と課題	〃	〃	〃	〃
14	在宅療養者への看護にかかわる課題	訪問看護や通所サービス提供事業所、医療機関の外来、地域連携部署等在宅ケア関連機関・組織における看護の課題についてプレゼンテーション、討議	〃	〃	〃
15	在宅療養者への看護にかかわる課題	〃	〃	〃	〃

日付

毎週木曜日6限目

教科書	指定しません。
参考書	鈴木 和子他著：家族看護学 理論と実践 第5版、日本看護協会出版会 中野 綾美他著：家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア、メディカ出版 山崎あけみ他編：看護学テキストNICE 家族看護学 臨床場面と事例から考える 第3版、南江堂
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	家族・在宅看護学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Family and Home Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子				
科目責任者氏名	桂 晶子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	国内外の文献や既存の理論を踏まえて、看護学の立場から家族の機能と関連要因との関係を明らかにし、その支援方法を開発する。また、在宅療養者と家族への支援について、社会資源の活用と地域ケアシステムの構築とともに理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の機能と機能不全につながる関連要因の関係を、既存の論文をとおして説明できる。 2. 家族への支援方法を分析し、評価するとともに家族に適切な支援方法を説明できる。 3. 現在の家族が持つ課題を明確にし、家族に対する看護職の役割と専門性について実践的に説明できる。 4. 在宅療養者と家族への支援における多職種連携の在り方について説明できる。 5. 社会資源の活用と地域ケアシステムの構築について探求できる。 6. 自己の研究との関連から、家族や在宅看護を探求できる。 				
成績評価方法	家族看護 プレゼンテーションと討議 50% (到達目標1、2、3、6を評価) 在宅看護 プレゼンテーションと討議 50% (到達目標4、5、6を評価)				
成績評価基準	特に優れている : 資料・討議内容は極めて論理的かつ適切であり、取り組む姿勢も申し分ない。 優れている : 資料・討議内容は論理的かつ適切であり、取り組む姿勢もよい。 良好である : 資料・討議内容は概ね適切である。 辛うじて到達している : 資料・討議内容の水準は目標到達に必要な最低限度である。 到達していない : 資料・討議内容が不十分であり目標到達水準を満たしていない。				
授業形式	授業は原則対面にて行います。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	家族の機能と機能に関連する関連要因の検討	既存論文を精読し、課題に対する研究の意義プレゼンテーション、検討する。 <例>家族の変貌と課題	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーションの準備	桂
2	家族の機能と機能に関連する関連要因の検討	〃	〃	〃	〃
3	家族の機能と機能に関連する関連要因の検討	〃	〃	〃	〃
4	家族の機能と機能に関連する関連要因の検討	〃	〃	〃	〃
5	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	既存論文及び特論で取り上げた項目を基本に家族の機能不全を予防するための家族への支援方法を評価・再構築する。	〃	〃	〃
6	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	〃	〃	〃	〃
7	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	〃	〃	〃	〃
8	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	〃	〃	〃	〃

9	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	〃	〃	〃	〃
10	家族の機能不全を予防する家族への支援方法	〃	〃	〃	〃
11	家族看護における看護の専門性と課題	家族看護における看護の専門性について、文献に基づき、プレゼンテーション、意見交換及び検討する。	〃	〃	〃
12	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
13	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
14	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
15	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
16	家族看護における看護の専門性と課題	〃	〃	〃	〃
17	在宅療養者と家族への支援	看看連携、他職種連携を基盤とした在宅療養者と家族への支援方法に関するプレゼンテーション、討議	講義・プレゼンテーション・討議	プレゼンテーション準備	鈴木
18	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
19	在宅療養者と家族への支援	社会資源の活用や地域ケアシステムの構築を基盤とした在宅療養者と家族への支援方法に関するプレゼンテーション、討議	〃	〃	〃
20	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
21	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
22	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
23	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
24	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
25	在宅療養者と家族への支援	在宅看護に関連する論文と自分の研究課題に関連する論文を精読してプレゼンテーション、討議	〃	〃	〃
26	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
27	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
28	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
29	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
30	在宅療養者と家族への支援	〃	〃	〃	〃
日付					
毎週月曜日5-6限目					

教科書	特に指定しません。
参考書	随時提示します。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	成人看護学特論	科目英語表記	Advanced Adult and Gerontological Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 山田カオル				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	成人看護学領域に関する研究を行うための基本となる概念および理論について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学領域での研究課題および研究の動向を理解できる。 2. 成人看護学領域における文献をクリティークできる。 3. 成人看護学領域における研究で活用されている概念・理論を説明できる。 4. 成人看護学領域における研究課題および研究の動向について討議できる。 5. ディスカッションに積極的に参加し、論理的に自分の意見を表現できる。 6. 既習内容を自分の研究に応用して、研究計画書の作成ができる。 7. プレゼンテーションおよび研究計画発表に向けて計画的に準備ができる。 				
成績評価方法	方針：研究課題の明確化につながる基本的な理論の理解、文献クリティーク、論理的な思考に基づく討議を重視する。 方法：プレゼンテーション30%、ディスカッションへの参加態度30%、レポート40% 基準：到達目標に沿って基本的な理論・概念の理解と学習方法の習得を評価する。				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面授業 受講者との相談の上 遠隔授業も考慮する				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	成人看護学領域における研究の動向	授業の進め方、目的・目標、関心ある研究テーマについて研究の動向と課題	講義と討議	関心ある研究テーマについてレポートする	遠藤(和) 山田
2	成人看護学領域における国内外の研究の動向	文献の選択方法、関心のある研究テーマに関する文献のクリティーク	講義、討議	文献クリティークの方法について、事前に調べておく。提示された文献を抄読し報告する	遠藤(和) 山田
3	成人看護学領域における国内外の研究の動向	関心のある研究テーマに関する文献のクリティーク	プレゼンテーション、ディスカッション	文献を抄読し報告する	遠藤(和) 山田
4	周辺領域の理論・文献の検討	研究の基盤となる理論や概念の検討	文献抄読	文献を抄読し、レポートを作成する	遠藤(和) 山田
5	周辺領域の理論・文献の検討	研究の基盤となる理論や概念の検討	文献抄読	レポートを作成する	遠藤(和) 山田
6	周辺領域の理論・文献の検討	研究の基盤となる理論や概念の検討	プレゼンテーションとディスカッション	レポートの作成とプレゼンテーションの準備	遠藤(和) 山田
7	成人看護学領域における看護理論の理解	関心領域に関連する理論の検討 看護理論家の理論から1つ以上	ディスカッション	理論を選択してくる	遠藤(和) 山田
8	成人看護学領域における看護理論の理解	関心領域に関連する理論の検討 看護理論家の理論から1つ以上	レポート作成	選択した理論についてレポートにまとめる	遠藤(和) 山田

9	成人看護学領域における看護理論の理解	関心領域に関連する理論の検討	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備	遠藤（和） 山田
10	成人看護学領域における概念の理解	関心領域に関連する概念の検討 看護実践に活用されている概念から1つ以上、他に、介護、女性、ジェンダーなど	プレゼンテーションとディスカッション	概念を選択してくる	遠藤（和） 山田
11	成人看護学領域における概念の理解	関心領域における概念の検討	レポート作成	選択した概念を説明し、実践事例と結び付けて解説する	遠藤（和） 山田
12	成人看護学領域における概念の理解	関心領域に関連する概念の検討	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備	遠藤（和） 山田
13	成人看護学領域における技術に関する理論・概念の検討	技術、教育などに関する概念の検討	ディスカッション	実践事例をもとにレポートを作成する	遠藤（和） 山田
14	成人看護学領域における技術に関する理論・概念の検討	技術、教育などに関する概念の検討	プレゼンテーションとディスカッション	実践事例をもとにレポートを作成してくる	遠藤（和） 山田
15	まとめ	研究課題の中心的概念の検討	研究テーマの中心となる概念についてまとめてくる	研究テーマの中心となる概念についてまとめてくる	遠藤（和） 山田

日付

毎週木曜日 6 限目

教科書	随時提示します。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤 和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 山田カオル：研究室33 kaoyamada@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	成人看護学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Adult and Gerontological Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 和子 准教授 山田カオル				
科目責任者氏名	遠藤 和子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	成人看護学領域に関連する先行研究のクリティークにより広い視点から探究し、自分の研究課題を明確にする。また、先行研究の検討およびディスカッションを踏まえて自分の研究計画を立案する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を研究の目的、意義・意味、限界等の視点から分析できる。 2. 先行研究をクリティークし、研究課題の明確化、研究計画の立案に活用できる。 3. 研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 4. 立案した研究計画における倫理的配慮について説明できる。 5. ディスカッションにおいて、積極的に自己の見解を表現できる。 6. 効果的なディスカッションを導く資料準備、自己学習ができる。 7. 研究計画を時間内にわかりやすくプレゼンテーションできる。 				
成績評価方法	方針：先行研究の分析力、プレゼンテーション力、ディスカッション力、資料作成力を評価する。 方法：プレゼンテーション40%、ディスカッション30%、資料作成30% 基準：各到達目標の研究課題の焦点化・研究計画立案における到達度をみる。				
成績評価基準	各到達目標について、 特に優れている； 適切で十分な根拠を踏まえて論理的に記述・説明できる 優れている； 根拠を踏まえて論理的に記述・説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究課題の明確化	自己の問題意識から研究課題の明確化	プレゼンテーションと討議	自己の研究課題についてプレゼンテーションの準備・資料作成	遠藤和子 山田
2	事例検討	事例選択と検討手法の検討	聴講（講義）、プレゼンテーションと討議	事例検討提示のための資料作製 自己の研究と関連する文献検索	遠藤和子 山田
3	事例検討	自己の実践事例について討議	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備 検討文献の検索	遠藤和子 山田
4	先行研究のクリティーク	文献収集方法、選択基準の考え方、文献クリティークの着眼点の基本に基づき、選択文献の妥当性を検討	聴講（講義）とディスカッション	文献検討の方法について基本を復習してくる。選択文献（英文）を紹介する準備。	遠藤和子 山田
5	先行研究のクリティーク	自己の研究課題と関連する文献の選択と、内容の概要の説明およびクリティーク。文献精読の結果、自己の研究における選択文献の位置づけの明確化	プレゼンテーションと討議	選択文献を各教員に事前に提示しておく	遠藤和子 山田
6	文献検討	成人看護学領域の重要な概念・理論を概観し、自己の研究の基幹となる理論と概念を明確にする	聴講（講義）とプレゼンテーション、討議	自己の研究課題に有用な、理論、概念について調べる	遠藤和子 山田
7	文献検討	自己の研究の基幹となる理論と概念についての検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子 山田

8	文献検討	選択した理論・概念と自己の研究の位置づけ、および研究方法との関連の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤山田
9	文献検討	文献検討を通して自己の研究課題に即した研究デザインを検討する	プレゼンテーションと討議	討議資料の作製	遠藤和子山田
10	研究計画の立案	研究デザインの検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製 基本的な研究手法について理解しておく	遠藤和子山田
11	研究計画の立案	研究デザインの検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
12	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討から汎用できそうな方法①の選択と、自己の研究課題に対しその手法を用いた場合に導かれる結果の想定	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
13	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討から汎用できそうな方法②の選択と、自己の研究課題に対しその手法を用いた場合に導かれる結果の想定	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
14	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討から汎用できそうな方法③の選択と、自己の研究課題に対しその手法を用いた場合に導かれる結果の想定	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
15	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と、その手法を用いた場合に導かれる結果の想定	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
16	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
17	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と検討 対象と分析方法	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
18	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と、対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
19	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
20	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
21	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
22	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田
23	研究計画の立案	研究方法の検討 文献検討の基に、自己の研究課題に対し適切な手法の選択と対象・分析方法の検討	プレゼンテーションと討議	検討資料の作製	遠藤和子山田

24	倫理的配慮の検討	履修者の研究における倫理的配慮の必要性の確認。個人情報保護、試料の提供等における手続きの確認を含む。	聴講（講義）、申請書の作成	本学の倫理審査申請書を確認しておく	遠藤和子 山田
25	倫理的配慮の検討	倫理審査申請書の作成	倫理審査申請書の作成	申請書を作成してくる	遠藤和子 山田
26	研究計画の立案	研究計画書の作成	プレゼンテーションと討議	研究計画書を作成してくる	遠藤和子 山田
27	研究計画の立案	研究計画書の精練	プレゼンテーションと討議	研究計画書を作成してくる	遠藤和子 山田
28	研究計画の立案	研究計画書の精練	プレゼンテーションと討議	研究計画書を作成してくる	遠藤和子 山田
29	研究計画の立案	研究計画の説明	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	遠藤和子 山田
30	研究計画の立案	研究計画の説明	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	遠藤和子 山田

日付

毎週木曜日 6 - 7 限目

教科書	随時提示する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤 和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 山田カオル：研究室33 kaoyamada@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学特論 I	科目英語表記	Advanced Gerontological Nursing I		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 後藤 慶				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護CNS必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	老年看護学を実践するための理論や概念の理解を深めるための理論的基盤となる諸理論を学ぶ。また、老年看護学における論理的思考や倫理的課題への基盤をつくる。老人看護専門看護師への理解を深め、役割を探究する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護に関する諸理論や概念について説明できる。 2. 高齢者の現状について、理論や概念を用いて説明できる。 3. 高齢者への看護介入に関する概念や理論を用いて看護援助を考えることができる。 4. 老年看護の動向と倫理的課題について分析でき、倫理調整について説明できる。 5. 老年看護の諸問題、研究の現状と分析ができ、課題の探究ができる。 6. 老人看護専門看護師の役割・機能について自分の考えを述べるができる。 				
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。				
成績評価基準	<p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。</p> <p>優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。</p> <p>目標に達していない；説明できない。</p>				
授業形式	対面または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	老年看護における理論と概念	老年期の発達課題と心理的危機	講義	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
2	老年看護における理論と概念	エイジング、高齢者のQOL	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
3	老年看護における理論と概念	ICFの概念と高齢者	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
4	老年看護実践のための理論と概念	サクセスフルエイジング、ウェルネスアプローチ、ライフストーリー、ICF、ケアリング	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
5	老年看護実践のための理論と概念	サクセスフルエイジング、ウェルネスアプローチ、ライフストーリー、ICF、ケアリング	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
6	老年看護実践のための理論と概念	サクセスフルエイジング、ウェルネスアプローチ、ライフストーリー、ICF、ケアリング	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
7	老年看護実践のための理論と概念	セルフケア理論、エンパワメント、役割理論、コンフォート理論	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
8	老年看護実践のための理論と概念	セルフケア理論、エンパワメント、役割理論、コンフォート理論	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
9	老年看護実践のための理論と概念	セルフケア理論、エンパワメント、役割理論、コンフォート理論	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華

10	老年看護実践領域での倫理的課題	エイジズム、高齢者虐待	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
11	老年看護実践領域での倫理的課題	エイジズム、高齢者虐待	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
12	老年看護実践領域での倫理的課題	老年看護領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整 事例検討	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
13	老年看護実践領域での倫理的課題	老年看護領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整 事例検討	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	齋藤美華
14	老年看護学実践・研究の課題と老年看護専門看護師の役割	老年看護の実践、研究の現状と課題、老年看護専門看護師の役割・機能	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	後藤慶
15	老年看護学実践・研究の課題と老年看護専門看護師の役割	老年看護の実践、研究の現状と課題、老年看護専門看護師の役割・機能	プレゼンテーション	文献検討およびプレゼンテーションの準備	後藤慶

日付

後日連絡

教科書	授業中に指定する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Gerontological Nursing		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	老年看護学領域の対象者と家族に特徴的な健康および健康問題について、国内外の文献検討をとおして学び、老年看護学研究を行う上で必要な方法論を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の研究課題に関連した文献を批判的に吟味することができる。 2. 老年看護に関連した領域の文献をとおして、その課題を説明できる。 3. 自らの関心に基づき、老年看護において探求・解決すべき課題を説明できる。 4. 課題設定を行い、その課題を探求していく上で依拠する前提や理論を説明できる。 5. 研究目的に適した研究方法について探求できる。 6. 研究計画を立案し、方法論を説明できる。 				
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。				
成績評価基準	<p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。</p> <p>優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。</p> <p>目標に達していない；説明できない。</p>				
授業形式	対面もしくは遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンス	進め方についてオリエンテーション、論文の提示	講義	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
2	地域における高齢者のヘルスプロモーション	地域における高齢者のヘルスプロモーションの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
3	地域における高齢者のヘルスプロモーション	地域における高齢者のヘルスプロモーションの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
4	地域における高齢者のヘルスプロモーション	地域における高齢者のヘルスプロモーションの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
5	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーション	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーションの現状の課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
6	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーション	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーションの現状の課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
7	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーション	要介護高齢者および家族の理解とヘルスプロモーションの現状の課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
8	高齢者の看取り	高齢者の看取りの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
9	高齢者の看取り	高齢者の看取りの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
10	高齢者の看取り	高齢者の看取りの現状と課題	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華

11	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
12	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
13	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
14	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
15	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
16	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
17	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
18	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
19	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
20	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
21	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
22	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
23	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
24	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
25	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
26	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
27	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
28	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
29	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華
30	研究テーマ構築	研究テーマと研究デザインの検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤美華

日付

後日連絡

教科書	授業中に指定する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp

授業科目	老年看護学特論Ⅱ	科目英語表記	Advanced Gerontological Nursing II		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護 CNS必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	高齢者の健康生活上のニーズについて、身体的・心理・精神的・社会的、環境の側面から包括的にアセスメントするために必要な評価方法を探求する。また、これらについて理論および研究成果に基づいた探求を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的、心理・精神的、社会的、環境の側面から包括的に評価する意義を説明できる。 2. 高齢者の転倒に関するリスクおよび評価、転倒防止について説明できる。 3. 高齢者の栄養および摂食・嚥下機能の評価について説明できる。 4. 高齢者の療養環境の評価および家族に関する評価を説明できる。 5. 高齢者の健康生活評価に基づく看護について討議することができる。 				
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。				
成績評価基準	<p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。</p> <p>優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。</p> <p>目標に達していない；説明できない。</p>				
授業形式	対面もしくは遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高齢者の健康生活評価の意義	高齢者の健康生活評価の目的および基本的な考え方、総合的機能評価の意義と活用方法について学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
2	高齢者の健康生活評価の意義	高齢者の健康生活評価の目的および基本的な考え方、総合的機能評価の意義と活用方法について学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
3	身体的機能の評価と実際	以下項目の評価およびアセスメント ADL・IADLの評価と注意点、高齢者の栄養の評価とリスク、摂食・嚥下機能の評価、高齢者総合機能評価(CGA)、転倒リスクの評価、疼痛に関する評価、自律神経の評価：排尿障害、血圧変動、起立性低血圧などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
4	身体的機能の評価と実際	以下項目の評価およびアセスメント ADL・IADLの評価と注意点、高齢者の栄養の評価とリスク、摂食・嚥下機能の評価、高齢者総合機能評価(CGA)、転倒リスクの評価、疼痛に関する評価、自律神経の評価：排尿障害、血圧変動、起立性	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

		低血圧などについて学修する。			
5	身体的機能の評価と実際	以下項目の評価およびアセスメント ADL・IADLの評価と注意点、高齢者の栄養の評価とリスク、摂取・嚥下機能の評価、高齢者総合機能評価(CGA)、転倒リスクの評価、疼痛に関する評価、自律神経の評価：排尿障害、血圧変動、起立性低血圧などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
6	身体的機能の評価と実際	以下項目の評価およびアセスメント ADL・IADLの評価と注意点、高齢者の栄養の評価とリスク、摂取・嚥下機能の評価、高齢者総合機能評価(CGA)、転倒リスクの評価、疼痛に関する評価、自律神経の評価：排尿障害、血圧変動、起立性低血圧などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
7	認知機能・心理的機能および社会的機能の評価と実際	認知機能評価：認知症スクリーニング法と評価スケール、精神心理の評価：気分、抑うつ、モラール・QOL（(生活満足度の評価、主観的健康観、SF-36)、ストレス評価などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
8	認知機能・心理的機能および社会的機能の評価と実際	認知機能評価：認知症スクリーニング法と評価スケール、精神心理の評価：気分、抑うつ、モラール・QOL（(生活満足度の評価、主観的健康観、SF-36)、ストレス評価などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
9	認知機能・心理的機能および社会的機能の評価と実際	認知機能評価：認知症スクリーニング法と評価スケール、精神心理の評価：気分、抑うつ、モラール・QOL（(生活満足度の評価、主観的健康観、SF-36)、ストレス評価などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
10	認知機能・心理的機能および社会的機能の評価と実際	認知機能評価：認知症スクリーニング法と評価スケール、精神心理の評価：気分、抑うつ、モラール・QOL（(生活満足度の評価、主観的健康観、SF-36)、ストレス評価などについて学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
11	生活環境の変化と環境調整	高齢者の療養環境評価法と環境調整法の理論と実際、環境理論を踏まえて、療養生活での人的・物理的環境、家族に関する諸理論を踏まえて、家族機能および家族の介護力、介護負担などの評価、SBS、経済状態の評価等について学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
12	生活環境の変化と環境調整	高齢者の療養環境評価法と環境調整法の理論と実際、環境理論を踏まえて、療養生活での人的・物理的環境、家族に関する諸理論を踏まえて、家族機能および家族の介護力、介護負担などの評価、SBS、	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

		経済状態の評価等について学修する。			
13	生活環境の変化と環境調整	高齢者の療養環境評価法と環境調整法の理論と実際、環境理論を踏まえて、療養生活での人的・物理的環境、家族に関する諸理論を踏まえて、家族機能および家族の介護力、介護負担などの評価、SBS、経済状態の評価等について学修する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
14	健康生活評価と看護	高齢者の健康生活評価と健康生活を支える看護について討議する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
15	健康生活評価と看護	高齢者の健康生活評価と健康生活を支える看護について討議する。	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

日付

後日連絡

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学特論Ⅲ	科目英語表記	Advanced Gerontological NursingⅢ		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 前田 邦彦 教 授 村 成幸 教 授 菊池 昭夫 非常勤講師 八巻 通安				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護 C N S 必修		
授業形態	講義	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	老年期に頻度の高い疾患や症候に関する診断、検査、治療の理解を深め、これらが及ぼす生活への影響、高度な看護判断、専門的な看護実践を通して、高齢者の生活維持への支援について探求する能力を養う。				
到達目標	1. 高齢者に多い疾患の病態、診断・治療を説明できる。 2. 高齢者が留意すべき全身徴候とアセスメントについて説明できる。 3. 急性増悪の予兆および対処方法を具体的に述べるができる。 4. 病態、診断・治療を踏まえて看護臨床判断に活かすことができる。 5. 病態や検査、治療が高齢者の生活に及ぼす影響を述べるができる。				
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。				
成績評価基準	特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。 目標に達していない；説明できない。				
授業形式	対面もしくは授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	老年期における留意すべき全身徴候とアセスメント	加齢に伴う細胞・代謝の変化、脱水、尿失禁、せん妄、うつ、皮膚掻痒感、便秘・下痢など	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
2	老年期における留意すべき全身徴候とアセスメント	加齢に伴う細胞・代謝の変化、脱水、尿失禁、せん妄、うつ、皮膚掻痒感、便秘・下痢など	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
3	脳血管疾患および神経疾患の病態と診断と治療	高齢者にみられる疾患の病態生理、診断、アセスメント、治療 (脳梗塞、脳血管障害、パーキンソン病)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫
4	脳血管疾患および神経疾患の病態と診断と治療	高齢者にみられる疾患の病態生理、診断、アセスメント、治療 (脳梗塞、脳血管障害、パーキンソン病)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫
5	言語・聴覚のアセスメント 嚥下障害の診断と治療	言語、聴覚障害の病態生理・診断、アセスメント、治療 (失語症) 嚥下障害の病態生理、診断、治療	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫
6	言語・聴覚のアセスメント 嚥下障害の診断と治療	言語、聴覚障害の病態生理・診断、アセスメント、治療 (失語症)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫

		嚥下障害の病態生理、診断、治療			
7	循環器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（高血圧、心筋梗塞、心不全など）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	八巻 通安
8	循環器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（高血圧、心筋梗塞、心不全など）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	八巻 通安
9	呼吸器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（肺炎、慢性閉塞性肺疾患など）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	八巻 通安
10	呼吸器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（肺炎、慢性閉塞性肺疾患など）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	八巻 通安
11	運動器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（骨折、骨粗鬆症、関節リウマチなど）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	村 成幸
12	運動器疾患の病態と診断・治療	病態生理、診断、アセスメント、治療（骨折、骨粗鬆症、関節リウマチなど）	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	村 成幸
13	感染症の病態と診断・治療	臨床の場での主な感染症の病態生理、診断、アセスメント、治療	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	前田 邦彦
14	診断・治療過程における高齢者看護の包括的アセスメント	事例検討を通して、複数の疾患を抱えながら生活する高齢者の病態生理、診断、治療を踏まえた看護臨床判断、検査・治療が高齢者の生活に及ぼす影響を包括的にアセスメントする	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
15	診断・治療過程における高齢者看護の包括的アセスメント	事例検討を通して、複数の疾患を抱えながら生活する高齢者の病態生理、診断、治療を踏まえた看護臨床判断、検査・治療が高齢者の生活に及ぼす影響を包括的にアセスメントする	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

日付

後日連絡

教科書	その都度資料配布および文献を紹介する。
参考書	事前に提示する課題や資料を自己学習して授業に臨む。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	村 : 研究室35 nmura@yachts.ac.jp 菊池 : 研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学特論Ⅳ	科目英語表記	Advanced Gerontological NursingⅣ		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 後藤 慶				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護 CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	高齢者の継続看護を展開するために必要な高齢者と家族の看護に関する実践理論を理解し、高齢者の生活における高齢者と家族の倫理的課題および具体的な看護実践と研究の統合について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者および家族を包括的にアセスメントできる。 2. 高齢者の生活機能を整えるための支援方法を検討できる。 3. 高齢者と家族における倫理的課題および支援方法を検討できる。 4. 終末期における高齢者と家族への支援を述べることができる。 5. 事例を通して、複雑な健康問題を持つ高齢者と家族の支援方法について、最新の文献を活用して具体的に述べるができる。 				
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。				
成績評価基準	<p>特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。</p> <p>優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。</p> <p>最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。</p> <p>目標に達していない；説明できない。</p>				
授業形式	対面もしくは遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	加齢に伴う生活への影響	加齢の変化および環境の変化に伴う日常生活への影響	プレゼンテーション	高齢者に特徴的な症状（歩行困難、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、皮膚掻痒感、痛み、尿失禁、便秘・下痢、不眠、転倒、せん妄など）に対する援助	齋藤 美華
2	加齢に伴う生活への影響	加齢の変化および環境の変化に伴う日常生活への影響	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
3	高齢者に特徴的な症状に対する看護	高齢者に特徴的な症状（歩行困難、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、皮膚掻痒感、痛み、尿失禁、便秘・下痢、不眠、転倒、せん妄など）に対する援助	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
4	高齢者に特徴的な症状に対する看護	高齢者に特徴的な症状（歩行困難、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、皮膚掻痒感、痛み、尿失禁、便秘・下痢、不眠、転倒、せん妄など）に対する援助	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
5	高齢者に特徴的な症状に対する看護	高齢者に特徴的な症状（歩行困難、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、皮膚掻痒感、痛み、尿失禁、便秘・下痢、不眠、転倒、せん妄など）に対する援助	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
6	高齢者の生活機能を整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能（コミュニケーション、食事：摂食・嚥下障害、排泄：尿・便秘失禁、清	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

		潔：皮膚掻痒感、活動：動作移動障害、休息：不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)			
7	高齢者の生活機能を整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能(コミュニケーション、食事：摂食・嚥下障害、排泄：尿・便失禁、清潔：皮膚掻痒感、活動：動作移動障害、休息：不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
8	高齢者の生活機能を整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能(コミュニケーション、食事：摂食・嚥下障害、排泄：尿・便失禁、清潔：皮膚掻痒感、活動：動作移動障害、休息：不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
9	高齢者の生活機能を整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能(コミュニケーション、食事：摂食・嚥下障害、排泄：尿・便失禁、清潔：皮膚掻痒感、活動：動作移動障害、休息：不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
10	高齢者の生活機能を整えるための看護	加齢に伴う変化における高齢者の生活機能(コミュニケーション、食事：摂食・嚥下障害、排泄：尿・便失禁、清潔：皮膚掻痒感、活動：動作移動障害、休息：不眠)のアセスメントと生活機能を維持・向上させるための援助 (倫理的判断を含む事例の検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
11	終末期にある高齢者および家族への援助	終末期の身体的特徴、緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
12	終末期にある高齢者および家族への援助	終末期の身体的特徴、緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
13	複雑な健康問題を抱えた高齢者と家族への看護	複雑な健康問題を抱えた高齢者および家族に対する最新の知識と技術を活用した看護展開の検討(事例検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	後藤 慶
14	複雑な健康問題を抱えた高齢者と家族への看護	複雑な健康問題を抱えた高齢者および家族に対する最新の知識と技術を活用した看護展開の検討(事例検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	後藤 慶
15	複雑な健康問題を抱えた高齢者と家族への看護	複雑な健康問題を抱えた高齢者および家族に対する最新の知識と技術を活用した看護展開の検討(事例検討)	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	後藤 慶
日付					
後日連絡					

教科書	授業内で提示する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学特論Ⅴ		科目英語表記	Advanced Gerontological Nursing Ⅴ		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 教授 桂 晶子 准教授 鈴木 育子					
科目責任者氏名	齋藤 美華					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護CNS必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位	
授業概要	国内外の高齢者保健医療福祉制度や政策の現状について学び、高齢者ケアに関する社会的背景や現状から課題を分析し、高齢者・家族への支援のあり方や他職種との連携と協働を理解し、医療・ケアの質を保證することができる能力を養う。また、事例を通して、提供するケアや支援の改善および構築を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実践するための能力を修得する。					
到達目標	1.国内外の高齢者保健医療福祉制度や政策について説明することができる。 2.日本の高齢者と家族に関する保健医療福祉政策の現状と課題を分析することができる。 3.他職種との連携と協働について分析し、専門看護師の役割を述べるすることができる。 4.事例を通して、高齢者と家族に対する支援についての検討ができる。 5.複雑な背景を持つ高齢者と家族の課題解決に向けた施策の立案ができる。					
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。					
成績評価基準	特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。 目標に達していない；説明できない。					
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷サポートシステムの現状と動向	日本における高齢者に関する保健医療福祉の制度・施策の変遷を理解し、諸外国における高齢者・家族への保健医療福祉制度・施策との比較を行う。また、高齢者と家族におけるサポートシステムの意義、日本における高齢者と家族のサポートシステムの現状と課題を分析する(文献検討および討議)	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
2	国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷サポートシステムの現状と動向	日本における高齢者に関する保健医療福祉の制度・施策の変遷を理解し、諸外国における高齢者・家族への保健医療福祉制度・施策との比較を行う。また、高齢者と家族におけるサポートシステムの意義、日本における高齢者と家族のサポートシステムの現状と課題を分析する(文献検討および討議)	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
3	国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷サポートシステムの現状と動向	日本における高齢者に関する保健医療福祉の制度・施策の変遷を理解し、諸外国における高齢者・家族への保健医療福祉制度・施策との比較を行う。また、高齢者と家族におけるサポートシステムの意義、日本における高齢者と家	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

		族のサポートシステムの現状と課題を分析する(文献検討および討議)			
4	高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
5	高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
6	高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
7	高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
8	高齢者と家族のための支援	各専門職の役割、他職種との連携と協働の現状と課題、高齢者および家族への支援(フォーマル・インフォーマル)の現状と課題を踏まえて、高齢者の支援のための組織化と活用について最新の研究および施策などから検討する。	文献検討・プレゼンテーション	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
9	保健医療福祉制度を踏まえた高齢者と家族への支援方法の検討	高齢者および家族への支援、他職との連携を踏まえて、ケアの継続を図るための高齢者・家族への支援のあり方について事例を用いて検討する。	事例検討・プレゼンテーション	事例検討・プレゼンテーションの準備	桂 晶子 鈴木 育子
10	保健医療福祉制度を踏まえた高齢者と家族への支援方法の検討	高齢者および家族への支援、他職との連携を踏まえて、ケアの継続を図るための高齢者・家族への支援のあり方について事例を用いて検討する。	事例検討・プレゼンテーション	事例検討・プレゼンテーションの準備	桂 晶子 鈴木 育子
11	保健医療福祉制度を踏まえた高齢者と家族への支援方法の検討	高齢者および家族への支援、他職との連携を踏まえて、ケアの継続を図るための高齢者・家族への支援のあり方について事例を用いて検討する。	事例検討・プレゼンテーション	事例検討・プレゼンテーションの準備	桂 晶子 鈴木 育子
12	複雑な背景を持つ高齢者と家族に対する支援の開発	複雑な健康障害や家族関係を持つ高齢者と家族に対するケアシステムの現状と課題を分析し、改善のための施策を立案することを通して、開発能	課題検討・プレゼンテーション	課題検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子

		力を養う。(企画案作成、発表・討議)			
13	複雑な背景を持つ高齢者と家族に対する支援の開発	複雑な健康障害や家族関係を持つ高齢者と家族に対するケアシステムの現状と課題を分析し、改善のための施策を立案することを通して、開発能力を養う。(企画案作成、発表・討議)	課題検討・プレゼンテーション	課題検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
14	複雑な背景を持つ高齢者と家族に対する支援の開発	複雑な健康障害や家族関係を持つ高齢者と家族に対するケアシステムの現状と課題を分析し、改善のための施策を立案することを通して、開発能力を養う。(企画案作成、発表・討議)	課題検討・プレゼンテーション	課題検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子
15	複雑な背景を持つ高齢者と家族に対する支援の開発	複雑な健康障害や家族関係を持つ高齢者と家族に対するケアシステムの現状と課題を分析し、改善のための施策を立案することを通して、開発能力を養う。(企画案作成、発表・討議)	課題検討・プレゼンテーション	課題検討・プレゼンテーションの準備	齋藤 美華 桂 晶子 鈴木 育子

日付

教科書	授業中に指定する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	桂 晶子：研究室9 skatsura@yachts.ac.jp 鈴木育子：研究室8 isuzuki@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護展開論Ⅰ		科目英語表記	Development of Geriatric nursing Ⅰ		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 教授 菊池 昭夫 非常勤講師 後藤 慶					
科目責任者氏名	齋藤 美華					
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護 CNS必修			
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位	
授業概要	認知症高齢者と家族の状況を分析し、倫理的な判断を踏まえて認知症高齢者に対する高度な看護実践が展開できる看護実践力を養う。また、フィールドワークを通して認知症医療の実際を知り、認知症看護の課題を抽出し、関連する文献や知識、討議を活用して課題解決のための方略を探究する。					
到達目標	1. 認知症高齢者の身体的、心理的、社会・経済的影響を包括的にアセスメントできる。 2. 認知症の病態、諸症状、診断・最新の治療について説明できる。 3. 認知症高齢者および家族の抱える倫理的課題について分析・考察できる。 4. 認知症高齢者の看護における他職種との連携の意義を述べることができる。 5. 認知症高齢者・家族の現状を踏まえ、最新の文献を活用して課題解決に向けた解決策を述べることができる。					
成績評価方法	授業の事前準備（関連文献・書籍の通読等）・プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。					
成績評価基準	特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に具体的に説明できる。 優れている；適切で十分な根拠をふまえて、論理的に説明できる。 良好である；根拠をふまえて、論理的に説明できる。 最低限の到達；根拠は不十分だが、ある程度論理的に説明できる。 目標に達していない；説明できない。					
授業形式	対面もしくは遠隔授業					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
1	認知症高齢者の理解と基本理念	認知症高齢者の理解、本人が抱える課題と社会状況、身体的、心理的、社会・経済的影響、認知機能の評価と看護実践、認知症高齢者に対する看護の基本、パーソンセンタードケアと看護	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華	
2	認知症高齢者の理解と基本理念	認知症高齢者の理解、本人が抱える課題と社会状況、身体的、心理的、社会・経済的影響、認知機能の評価と看護実践、認知症高齢者に対する看護の基本、パーソンセンタードケアと看護	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華	
3	認知症高齢者の理解と基本理念	認知症高齢者の理解、本人が抱える課題と社会状況、身体的、心理的、社会・経済的影響、認知機能の評価と看護実践、認知症高齢者に対する看護の基本、パーソンセンタードケアと看護	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華	
4	認知症の病態・診断・治療	認知症の病態生理、検査と診断、中核症状とBPSD、治療（薬物、非薬物）、認知機能のメカニズム（記憶、情動と帰属）	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫	
5	認知症の病態・診断・治療	認知症の病態生理、検査と診断、中核症状とBPSD、治療（薬物、非薬物）、認知機能	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	菊池 昭夫	

		のメカニズム（記憶、情動と帰属）			
6	認知症高齢者と家族に対する支援	認知症高齢者の日常生活への援助、環境的アプローチ（validation、activity）、家族への影響、認知症の予防、非薬物的療法とその効果	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
7	認知症高齢者と家族に対する支援	認知症高齢者の日常生活への援助、環境的アプローチ（validation、activity）、家族への影響、認知症の予防、非薬物的療法とその効果	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
8	認知症高齢者の看護	認知症高齢者と家族に対する看護判断・計画立案（事例検討）	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
9	認知症高齢者の看護	認知症高齢者と家族に対する看護判断・計画立案（事例検討）	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
10	認知症高齢者の看護	認知症高齢者と家族に対する看護判断・計画立案（事例検討）	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
11	他職種との連携・協働	認知症高齢者および家族の課題 地域のサポートチームとの協働、認知症ケアにおける専門看護師の役割、サポートグループの活用	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	後藤 慶
12	他職種との連携・協働	認知症高齢者および家族の課題 地域のサポートチームとの協働、認知症ケアにおける専門看護師の役割、サポートグループの活用	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	後藤 慶
13	認知症高齢者へのアプローチ（1）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
14	認知症高齢者へのアプローチ（1）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
15	認知症高齢者へのアプローチ（1）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
16	認知症高齢者へのアプローチ（1）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
17	認知症高齢者へのアプローチ（1）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族への	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

		ケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。			
18	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
19	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
20	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
21	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
22	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
23	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
24	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
25	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
26	認知症高齢者へのアプローチ（１）フィールドワーク	物忘れ外来において4日間のフィールドワークを行い、外来における認知症の診断・治療、他職種連携の実際を見学し、認知症高齢者・家族へのケアの実際、倫理的側面から分析・考察する。	フィールドワーク	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
27	認知症高齢者へのアプローチ（２）	フィールドワークでの体験を通して、認知症高齢者と家族	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

	発表と総括	への看護実践の課題と倫理的側面について最新の文献を活用して、解決方法を検討する。			
28	認知症高齢者へのアプローチ（2） 発表と総括	フィールドワークでの体験を通して、認知症高齢者と家族への看護実践の課題と倫理的側面について最新の文献を活用して、解決方法を検討する。	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
29	認知症高齢者へのアプローチ（2） 発表と総括	フィールドワークでの体験を通して、認知症高齢者と家族への看護実践の課題と倫理的側面について最新の文献を活用して、解決方法を検討する。	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華
30	認知症高齢者へのアプローチ（2） 発表と総括	フィールドワークでの体験を通して、認知症高齢者と家族への看護実践の課題と倫理的側面について最新の文献を活用して、解決方法を検討する。	事例または文献検討、プレゼンテーション	事例または文献検討、プレゼンテーションの準備	齋藤 美華

日付

後日連絡

教科書	授業中に指定する
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護展開論Ⅱ	科目英語表記	Development of Geriatric nursing II		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 後藤 慶				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択 老年看護CNS必修		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	健康障害をもつ高齢者の急性期における様々な病態とその影響について包括的にアセスメントし、ケアとキュアの融合を導くケアについて学ぶ。また根拠や研究を活用して、倫理的判断をふまえ、高度な看護実践を展開する能力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な問題を持つ高齢者の健康問題や健康生活を包括的にアセスメントし、専門的知識と技術を用いて、看護計画の立案を行い、問題解決を図ることができる。 2. 急性期における複雑な課題を持つ高齢者と家族への看護実践の有効と課題を分析できる。 3. 急性期にある高齢者および家族の退院に向けての調整を行う。 4. フィールドワークを通して、急性期看護における高齢者および家族の課題を明確にし、ケアの継続を踏まえて課題解決方法を考えることができる。 5. 自らの看護実践の課題を明確し、理論、文献を活用して分析できる。 				
成績評価方法	授業中の参加態度・課題の取り組み（30%）、フィールドワークの内容・記録（30%）、課題レポート（40%）				
成績評価基準	<p>特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に分析できる</p> <p>優れている； 根拠をふまえて論理的に分析できる</p> <p>良好である； 根拠を用いてある程度論理的に分析できる</p> <p>最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に分析できる</p> <p>目標に到達していない； 分析できない</p>				
授業形式	対面授業、ただし遠隔授業となることがあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	急性期における高齢者の特徴と看護の基本	急性期の高齢者の特徴 急性期の高齢者の健康状態の評価 身体的治療の高齢者への影響 急性期における高齢者の理論と看護	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
2	急性期における高齢者の特徴と看護の基本	急性期の高齢者の特徴 急性期の高齢者の健康状態の評価 身体的治療の高齢者への影響 急性期における高齢者の理論と看護	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
3	急性期における高齢者の特徴と看護の基本	急性期の高齢者の特徴 急性期の高齢者の健康状態の評価 身体的治療の高齢者への影響 急性期における高齢者の理論と看護	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
4	急性期看護に関する文献検討	グローバルな視点から、高齢者の急性期看護および退院調整に関する最新の文献の検索・検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
5	急性期看護に関する文献検討	グローバルな視点から、高齢者の急性期看護および退院調整に関する最新の文献の検索・検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
6	急性期看護に関する文献検討	グローバルな視点から、高齢者の急性期看護および退院調整	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤

		整に関連する最新の文献の検索・検討			
7	急性期看護に関する文献検討	グローバルな視点から、高齢者の急性期看護および退院調整に関連する最新の文献の検索・検討	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤
8	急性期看護における倫理的課題の検討	急性期看護における絵倫理的課題について、事例を用いて検討（せん妄、栄養障害、抑制など）	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤、後藤
9	急性期看護における倫理的課題の検討	急性期看護における絵倫理的課題について、事例を用いて検討（せん妄、栄養障害、抑制など）	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤、後藤
10	急性期看護における倫理的課題の検討	急性期看護における絵倫理的課題について、事例を用いて検討（せん妄、栄養障害、抑制など）	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤、後藤
11	急性期看護における倫理的課題の検討	急性期看護における絵倫理的課題について、事例を用いて検討（せん妄、栄養障害、抑制など）	討議	文献検討・プレゼンテーションの準備	齋藤、後藤
12	急性期における高齢者への看護実践	高度な集中ケアが必要な高齢者と家族への看護 高齢者への包括的アセスメント 高齢者へのケアの検討 高齢者の家族に対するアセスメントと看護 事例を用いて医療依存のある高齢者と家族の退院に向け他職種の調整、倫理的調整について検討	演習、実習	文献検討・プレゼンテーションの準備	門馬康介（CNS）、後藤（CNS）
13	〃	〃	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃	〃	〃
15	〃	〃	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃	〃	〃
21	フィールドワーク	急性期看護の実践について、ケアやカンファレンス、評価会議などに参加 急性期の高齢者における倫理的課題の実際 医師のクリニカルラウンド、カンファレンスに参加し、診断、検査、薬物療法、処置を学ぶ	フィールドワーク	文献検討・プレゼンテーションの準備	門馬康介（CNS）
22	〃	〃	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃	〃	〃
27	フィールドワークの総括	フィールドワークをふまえ、文献を活用し、急性期にある高齢者の看護の実際、看護の	討議	齋藤、後藤	文献検討・プレゼンテーションの準備

		継続や課題および解決方略の 検討			
28	〃	〃	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃	〃	〃

日付

後日連絡

教科書	
参考書	その都度提示する
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学実習Ⅰ	科目英語表記	Gerontological Nursing Practice Ⅰ		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 後藤 慶				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	4単位
授業概要	専門科目で学習した内容を統合して、認知症高齢者とその家族に対する包括的なアセスメントおよび高度な看護実践能力を修得する。また、認知症高齢者および家族、専門職間が抱える倫理的葛藤への調整、円滑なケアのための他職種との調整、認知症看護の専門性について学ぶ。さらに、参加観察を通して老人専門看護師の役割と機能について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加観察を通して、看護実践、相談、調整、コンサルテーションなどの専門看護師の役割と機能について具体的に述べることができる。 2. 認知症高齢者とその家族に対する包括的なアセスメントをもとに、高度な看護実践を展開し、評価する。 3. 認知症高齢者の看護に関わるスタッフおよび他部門、他施設などとの調整機能を具体的に述べることができる。 4. 認知症高齢者と家族、専門職間の倫理的調整について説明することができる。 5. 認知症高齢者への看護の課題、専門看護師の教育的働きかけ、研究活動について述べるができる。 				
成績評価方法	実習場面での評価（60%）、実習レポート（40%） 実践場面では、問題解決展開力・学習力・分析力を、実習レポートではプレゼンテーション力・内容から総合的に評価する。				
成績評価基準	実習要項を参照				
授業形式	対面授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	CNS役割実習	<p>専門看護師として、包括的アセスメント能力（疾患や治療の生活への影響、高齢者の軌跡や価値観、信念などの統合）と看護実践能力を養い、ケアの質の向上を目指し、専門看護師の役割と機能を果たすために、教員および実習指導者と協議しながら自立して実習計画、実習環境を調整する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師役割実習（1週目） <ol style="list-style-type: none"> ①老年専門看護師の役割を参加観察し、看護実践の実際（看護実践、スタッフの相談・教育、他部門との調整、倫理調整など）について事例検討やカンファレンスへの参加を通して、看護の質の確保、業務改善のための取り組みについて学ぶ。 ②他職種によるケア会議に参加し、現象の分析、他職種との協働を検討する。 ③医療機関の研究や研修、継続教育に参加し、専門看護師の行っている業務改善や組織改革のための取り組みについて学修する。 2. 認知症高齢者への高度な看護実践（2～4週） <ol style="list-style-type: none"> ①認知症高齢者と家族3事例に対して、包括的アセスメントを活用し、高度な看護実践を行い、評価する。 	<p>高齢者専門医療施設（4週間以上） 実習施設：北村山公立病院（予定）</p>	実習に必要な事前学習・振り返り	齋藤 実習指導 後藤（CNS）

	<p>②高齢者と家族の特性をふまえて、他職種との協働・連携を図りながら専門的な看護実践を行い、評価する。</p> <p>③ケースカンファレンスにおいてケアに関する評価を検討する。</p> <p>④実践現場で可能な限り改善や開発的な活動を検討する。</p> <p>⑤実践したケースに関する実習レポートを作成し、指導者・他職種・教員からのフィードバック、スーパービジョンを受け、自己の課題を明確にする。</p>			
--	---	--	--	--

教科書	
参考書	必要なものを自分で探す
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学実習Ⅱ	科目英語表記	Gerontological Nursing Practice II		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤 美華 非常勤講師 後藤 慶				
科目責任者氏名	齋藤 美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	6単位
授業概要	急性期にある高齢者のケアとケアの統合の視点を持ち、エビデンスに基づく高度な専門的知識と技術を用いて看護実践を修得する。また、高齢者と家族に対する高度な退院支援を修得する。高齢者と家族に効果的なケアを提供するために調整（倫理的調整も含む）、相談、教育活動についての展開方法を修得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある高齢者の身体・精神・生活、検査・診断・治療・薬物の影響をアセスメントできる。 2. 高齢者および家族に適切な看護判断に基づき、高度な看護援助の実施・評価ができる。 3. 医療依存度の高い高齢者の退院に向けて、多職種と連携しながら支援できる。 4. 看護実践について、専門的知識と技術、最新の知見を活用して論理的に分析できる。 5. 高齢者と家族に効果的なケアを提供するための調整（倫理的調整も含む）、相談、教育活動が修得1できる 				
成績評価方法	実践場面での評価（60%）、実習レポート（40%） 実践場面では、問題解決のための展開力・学習力・分析力を評価し、教育・相談・調整の視点から評価する。実習レポートは、ケースレポート発表でのプレゼンテーションまたは課題レポート（高度な看護実践する専門看護師としての自己課題の明確化と考察）で評価する。				
成績評価基準	実習要項を参照				
授業形式	実習				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	2ndレベル 役割統合実習	<p>1. 役割統合実習Ⅰ 3単位 (3週間以上)</p> <p>【目標】 高度な集中ケアが必要な高齢者と家族の状況に応じて、質の高い看護実践活動を行うために必要な高度なアセスメント能力と実践能力を養う。また、ケアの質の向上に向けて調整（倫理的調整も含む）、相談、教育活動を修得する。</p> <p>【学習方法】 上記の目標を達成するための実習計画を立案し、CNSと担当教員からスーパービジョンを受ける。また、高齢者および家族を対象にケアとケアを統合した看護計画の立案、実施、評価をCNSと一緒に実施する。CNSとともに行動し、看護実践に必要な調整、相談、教育活動に参加する。</p> <p>【学習内容】 1) 高度な集中ケアを必要とする高齢者を2事例受け持ち、医師や薬剤師、コメディカルなどの資源を活用して、高齢者と家族の生活の質を高めるための高度な看護実践をCNSとともに実施する。（合併症、認知症、呼吸・循環・水分などの管理等） 2) 高齢者への高度な看護実践を行いつつ、CNSが行う調</p>	6週間以上 指定された実習施設で実習する	実習に必要な事前学習・事後学習	齋藤 実習指導 後藤（CNS）

	<p>整、相談、教育活動に参加する。</p> <p>3) 看護スタッフ、他の専門職と連携し、専門職間の調整をCNSの指導のもと、参加する。</p> <p>4) 病院の実施している研究的取組や事例検討、カンファレンスに参加する。また、必要時に文献や最新の知見等の情報を提供する。</p> <p>2. 役割統合実習Ⅱ 3単位(3週間以上)</p> <p>【目標】 医療依存度の高い高齢者、および家族の状況に即した高度な退院支援について修得する。また、高齢者と家族の退院を効果的にするための調整、相談、教育活動について修得する。</p> <p>【学習方法】 上記の目標を達成するための実習計画を立案し、CNSと担当教員からスーパービジョンを受ける。また、医療依存度の高い高齢者の退院に関する支援について、CNSとともに行動し、退院に必要な調整、相談、教育活動に参加する。2事例のケースを受け持ち、ケースレポートを作成し、ケースカンファレンスを実施する。うち1事例は、CNSの指導のもとで医療依存度の高い高齢者の退院支援を展開する。終了後は課題レポートを作成する。</p> <p>【学習内容】 1) 医療依存度の高い高齢者を2事例受け持ち、退院に向けて高齢者と家族に対する高度な看護実践に参加し、うち1事例はCNSの指導のもとで展開する。 2) 医療依存度の高い高齢者の退院に向けた、看護スタッフおよび他部門・他施設・地域・多職種との調整、相談、教育活動にCNSの指導のもと、参加する。 3) 病院の実施している研究的取組や事例検討、カンファレンスに参加し、必要時に文献や最新の知見についての情報を提供する。</p>			
--	---	--	--	--

教科書	
参考書	必要なものを自分で探してください。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	老年看護学課題研究	科目英語表記	Research on Gerontological Nursing Issues		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 齋藤美華				
科目責任者氏名	齋藤美華				
学内連絡教員氏名	沼澤さとみ				
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	老年看護CNS必修		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	これまでの学修並びに看護実践で生じた疑問から、母性看護学領域における課題を見出し、課題解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を焦点化し、課題追求方法を検討し、計画立案できる。 2. 収集したデータを分析し論理的にまとめることができる。 3. 看護実践の改善・改革を提言できる。 				
成績評価方法	論文作成段階の参加状況 50% 論文 50%				
成績評価基準	<p>到達目標 1</p> <p>A; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、適切な課題追求方法を選択し、具体的で適切な計画立案できる。</p> <p>B; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、課題追求方法を選択し、計画立案できる。</p> <p>C; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、課題追求方法計画立案が不十分。</p> <p>D; 研究課題を実践活動の中から焦点化するが、課題追求方法や計画立案ができない。</p> <p>F; 研究課題を実践活動の中から焦点化できない。</p> <p>到達目標 2</p> <p>A; 収集したデータを適切に分析し論理的にまとめることができる。</p> <p>B; 収集したデータを分析し論理的にまとめることができる。</p> <p>C; 収集したデータを分析しまとめることができる。</p> <p>D; 収集したデータの分析やまとめやが不十分。</p> <p>F; 収集したデータを分析しまとめることができない。</p> <p>到達目標 3</p> <p>A; 看護実践の改善・改革を研究結果から老年看護CNSの視点で具体的に提言できる。</p> <p>B; 看護実践の改善・改革を研究結果から老年看護CNSの視点で提言できる。</p> <p>C; 看護実践の改善・改革を研究結果から提言できるが老年看護CNSの視点がやや不足。</p> <p>D; 看護実践の改善・改革を研究結果から提言できるが老年看護CNSの視点がかなり不足。</p> <p>F; 看護実践の改善・改革の提言に老年看護CNSの視点がない。</p>				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	研究の遂行	研究課題の明確化 研究計画書の作成 倫理審査委員会申請書の作成 および倫理審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発表	研究 討議 発表	研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成	齋藤

教科書	
参考書	必要に応じて自分で探してください
ディプロマ・ポリシーとの	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3

関連	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	母子看護学特論	科目英語表記	Advanced Maternal and Child Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香				
科目責任者氏名	中村 康香				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択 母性看護CNSは必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	妊娠出産育児期にある母子や家族の健康状態を理解し、健康問題を臨床診断するのに必要な理論を理解し、周産期の母子と家族の健康と健康保持増進について論理的に考察する。				
到達目標	1. 周産期にある母子と家族の健康状態を、理論を用いて論理的に説明できる。 2. 周産期にある母子と家族がより健康に生活するための援助を導くため、適切に必要な理論を説明できる。				
成績評価方法	各授業の準備 50%、授業内の討議への参加状況 50%				
成績評価基準	到達目標 1、2 A；周産期にある母子と家族の健康状態と援助について、適切な理論を用いて論理的に具体的に説明できる。 B；周産期にある母子と家族の健康状態と援助について、適切な理論を用いて論理的に説明できる。 C；周産期にある母子と家族の健康状態と援助について、適切な理論を用いて説明できる。 D；周産期にある母子と家族の健康状態と援助について、理論を用いて説明できない。 F；周産期にある母子と家族の健康状態と援助に関する理論を説明できない。				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業となることがあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	移行と発達危機①	移行・発達危機の概念	講義と討議	事後学習；移行に関する論文の精読	中村
2	移行と発達危機②	看護における移行・発達危機の概念から活用の意義	主に討議	事前学習；発達危機に影響する要因と看護援助について考察	中村
3	移行と発達危機③	発達危機に影響する要因と看護援助	主に討議	事前学習；役割に関する論文の精読	中村
4	役割	役割の概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；母親役割に関する論文の精読	中村
5	母親役割①	母親役割の概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；母親役割に関する論文の精読	中村
6	母親役割②	母親役プロセスと影響要因	事前学習をもとに主に討議	事前学習；父親役割に関する文献の精読	中村
7	父親役割	父親役割の概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；家族システムに関する論文の精読	中村
8	家族①	家族の概念、家族の発達	事前学習をもとに主に討議	事前学習；家族システムに関する論文の精読	中村
9	家族②	家族システム	事前学習をもとに主に討議	事前学習；家族システムに関する論文の精読	中村
10	愛着・絆・母子相互作用①	愛着・絆・母子相互作用の概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；愛着・絆・母子相互作用に関する論文の精読	中村
11	愛着・絆・母子相互作用②	愛着・絆・母子相互作用の影響要因	事前学習をもとに主に討議	事前学習；愛着・絆・母子相互作用に関する論文の精読	中村
12	ヘルスプロモーション①	ヘルスプロモーションの概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ヘルスプロモーションに関する論文の精読	中村
13	ヘルスプロモーション②	ヘルスプロモーションの臨床への適用	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ヘルスプロモーションに関する論文の精読	中村

14	ウェルネス①	ウェルネスの概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ウェルネスに関する論文の精読	中村
15	ウェルネス②	母性看護領域におけるウェルネスの活用の意義	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ウェルネスに関する論文の精読	中村
日付					
毎週月曜日7限目					

教科書	なし
参考書	随時提示する
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	中村康香
備考	母性看護CNSは必修科目です

授業科目	周産期看護学特論	科目英語表記	Advanced Perinatal Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子 教授 中村 康香				
科目責任者氏名	菊地 圭子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択 母性CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	周産期の母子の健康問題を解決する援助の基盤となる周産期ケアの最新知識、周産期ケアシステムと組織化に関する理論や母子保健行政を理解し、根拠に基づく質の高いケアを考察する。				
到達目標	1. 臨床で多く見られる周産期の健康問題に対して、根拠に基づく質の高い周産期ケアを説明できる。 2. 質の高い周産期ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を説明できる。				
成績評価方法	各授業の準備；50% 授業内の討議への参加度；50%				
成績評価基準	到達目標1 A；臨床で多く見られる周産期の健康問題に対するケアについて、最新の信頼性の高い根拠に基づき具体的に説明できる。 B；臨床で多く見られる周産期の健康問題に対するケアについて、最新の信頼性の高い根拠に基づき説明できる。 C；臨床で多く見られる周産期の健康問題に対するケアについて、信頼性の高い根拠に基づき説明できる。 D；臨床で多く見られる周産期の健康問題に対するケアについて説明できるが明確な根拠を説明できない。 F；臨床で多く見られる周産期の健康問題に対するケアについて、説明できない。 到達目標2 A；質の高い周産期ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら具体的に多面的に説明できる。 B；質の高い周産期ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら説明できる。 C；質の高い周産期ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら説明できるが不十分。 D；質の高い周産期ケアに向けたケアシステムについて説明できるが、現在の課題をふまえていない。 F；質の高い周産期ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、説明できない。				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業となることがあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	エビデンスに基づく看護①	周産期ケアにおけるエビデンスの獲得方法	講義と討議		菊地
2	エビデンスに基づく看護②	周産期の医療や看護ケアに関するガイドライン	事前学習をもとに主に討議	事前学習；周産期の医療・看護ケアに関するガイドラインの理解	菊地
3	エビデンスに基づく看護③	周産期の医療や看護ケアに関するガイドライン	事前学習をもとに主に討議	事前学習；周産期の医療・看護ケアに関するガイドラインの理解	菊地
4	周産期看護に関する研究の動向①	周産期看護に関する国内の研究の動向	事前学習をもとに主に討議	事前学習；周産期看護に関する国内の研究の動向のまとめ	菊地
5	周産期看護に関する研究の動向②	周産期看護に関する海外の研究の動向	事前学習をもとに主に討議	事前学習；周産期看護に関する海外の研究の動向のまとめ	菊地
6	多胎児家庭の健康問題と看護①	妊娠期から育児期における多胎児家庭の健康問題の分析	事前学習をもとに主に討議	事前学習；多胎児の育児に関する研究論文の精読	菊地
7	多胎児家庭の健康問題と看護②	妊娠期から育児期における多胎児家庭に対する看護援助	事前学習をもとに主に討議	事前学習；多胎児の育児に関する研究論文の精読	菊地
8	ペリネイタルロスと看護①	ペリネイタルロスを経験した家族の健康問題の分析	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ペリネイタルロスに関する論文の精読	菊地
9	ペリネイタルロスと看護②	ペリネイタルロスを経験した家族への看護援助	事前学習をもとに主に討議	事前学習；ペリネイタルロスに関する論文の精読	菊地
10	周産期の精神疾患と看護①	精神疾患を持つ女性の周産期に起こる健康問題の分析	事前学習をもとに主に討議	事前学習；精神疾患を持つ女性の周産期ケアに関する論文	菊地

				の精読	
11	周産期の精神疾患と看護②	精神疾患を持つ女性に対する周産期の看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；精神疾患を持つ女	菊地
12	周産期の精神疾患と看護③	精神疾患を持つ女性と家族に対する周産期の看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；精神疾患を持つ女性の周産期ケアに関する論文の精読	菊地
13	周産期ケアシステム①	周産期医療システム	事前学習をもとに主に討議	周産期ケアシステムに関する理解	菊地
14	周産期ケアシステム②	周産期の保健・健康増進のケアシステム	事前学習をもとに主に討議	周産期ケアシステムに関する理解	菊地
15	周産期ケアシステム③	システムの組織化	事前学習をもとに主に討議	周産期ケアシステムに関する理解	菊地
日付					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊地主子研究室
備考	

授業科目	女性生涯看護学特論	科目英語表記	Advanced Womens Health Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 中村 康香 教授 菊地 圭子				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	各ライフステージにある女性の殖内分泌の変化や身体的心理的特徴と健康状態に影響する要因を教授し、女性のライフサイクル全般にわたる個および集団の健康増進について考察する。				
到達目標	1. リプロダクティブヘルス／ヘルスの概念を説明できる。 2. 各ライフステージにある女性の健康に影響する、生殖内分泌の変化や人間発達学的知識を説明できる。 3. 各ライフステージにある女性に起こりうる健康問題を考察できる。				
成績評価方法	各授業の準備 50%、授業内の討議への参加状況 50%				
成績評価基準	到達目標 1、3 A；リプロダクティブヘルス／ライツの概念を十分理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を具体的に多面的に考察できる。 B；リプロダクティブヘルス／ライツの概念を十分理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を考察できる。 C；リプロダクティブヘルス／ライツの概念を理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を考察できる。 D；リプロダクティブヘルス／ライツの概念の理解が不十分である。 F；リプロダクティブヘルス／ライツの概念を理解できない。 到達目標2、3 A；各ライフステージにある女性の健康に影響する生殖内分泌の変化や人間発達学的知識を十分理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を具体的に多面的に考察できる。 B；各ライフステージにある女性の健康に影響する生殖内分泌の変化や人間発達学的知識を十分理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を考察できる。 C；各ライフステージにある女性の健康に影響する生殖内分泌の変化や人間発達学的知識を理解し、女性のライフサイクル全般にわたる健康への影響を考察できる。 D；各ライフステージにある女性の健康に影響する生殖内分泌の変化や人間発達学的知識の理解が不十分である。 F；各ライフステージにある女性の健康に影響する生殖内分泌の変化や人間発達学的知識を理解できない。				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	リプロダクティブヘルス／ライツ①	ウィメンズヘルスケアの概念	講義、討議		遠藤
2	リプロダクティブヘルス／ライツ②	リプロダクティブヘルス／ライツの概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；リプロダクティブヘルス／ライツに関する論文の精読	遠藤
3	女性の身体的特徴	女性生殖器の形態	講義	事後学習；授業の復習	仁藤
4	女性の生殖内分泌	各ライフステージにおける女性の生殖内分泌学	講義	事後学習；授業の復習	前田
5	女性医療と薬物	女性医療とホルモン剤	講義	事後学習；授業の復習	蓬田
6	セクシャリティ①	セクシャリティの概念	事前学習をもとに主に討議	事前学習；セクシャリティに関する論文の精読	菊地
7	セクシャリティ②	セクシャリティに関連する女性に生じる健康問題	事前学習をもとに主に討議	事前学習；セクシャリティに関する論文の精読	菊地
8	セクシャリティ③	社会の変化とセクシャリティ	事前学習をもとに主に討議	事前学習；セクシャリティに関する論文の精読	菊地
9	思春期女性における健康問題の特性①	思春期に多くみられる健康問題①	事前学習をもとに主に討議	事前学習；月経に対するケアに関する論文の精読	中村
10	思春期女性における	思春期に多くみられる健康問	事前学習をもとに主に討議	事前学習；月経に対するケア	中村

	健康問題の特性②	題②		に関する論文の精読	
11	思春期女性における健康問題の特性③	思春期に多くみられる健康問題③	事前学習をもとに主に討議	事前学習；月経に対するケアに関する論文の精読	中村
12	成熟期女性における健康問題の特性①	成熟期に多くみられる健康問題①	事前学習をもとに主に討議	事前学習；成熟期女性の健康管理に関する論文の精読	中村
13	成熟期女性における健康問題の特性②	成熟期に多くみられる健康問題②	事前学習をもとに主に討議	事前学習；成熟期女性の健康管理に関する論文の精読	中村
14	更年期・老年期女性における健康問題の特性①	更年期・老年期女性における健康問題①	事前学習をもとに主に討議	事前学習；更年期・老年期女性の健康管理に関する論文の精読	遠藤
15	更年期・老年期女性における健康問題の特性②	更年期・老年期女性における健康問題②	事前学習をもとに主に討議	事前学習；更年期・老年期女性の健康管理に関する論文の精読	遠藤
日付					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	母性看護CNSは必修科目です

授業科目	母子看護学特論演習		科目英語表記	Advanced Seminar on Maternal and Child Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香 教授 菊地 圭子 教授 遠藤 恵子					
科目責任者氏名	中村 康香					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位	
授業概要	母性看護学特論で学習した概念および理論を基盤とし、母性看護領域の文献のクリティークを通して、研究課題の明確化および研究課題に適した研究方法を立案する。					
到達目標	1. 母性看護領域の文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画が立案できる。 2. 研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。					
成績評価方法	到達目標1、2について以下の方法で評価する 各授業ごとのプレゼンテーション準備の取り組みとプレゼンテーションの実施状況 50% 授業内での討議への参加状況・発言・考察 50%					
成績評価基準	1. 母性看護領域の文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画が立案できる。 A；文献のクリティークを十分行い、研究課題を明確にし、具体的で実行可能な研究計画が立案できる。 B；文献のクリティークを行い、研究課題を概ね明確にし、概ね具体的で実行可能な研究計画が立案できる。 C；文献のクリティークを行い、研究課題を概ね明確にするが、研究計画の具体性や実行可能性にやや欠ける。 D；文献をクリティークするが、研究課題がやや不明確で、研究計画が不十分。 F；文献をクリティークできず、研究課題を明確にできない。 2. 研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 A；複数の先行研究を十分応用し、研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 B；複数の先行研究を応用し、研究課題を達成するために適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 C；先行研究を応用し、研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できるが、やや具体性に欠ける。 D；先行研究を応用し、研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できるが、具体性に欠ける。 F；研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できない。					
授業形式	演習 対面授業を主とするが、適宜遠隔授業を取り入れる。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
2	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
3	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
4	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
5	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
6	研究課題の明確化と研究方法の理解	先行研究を精読し、自分の研究課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
7	研究計画の立案	各種研究デザイン、研究方法を比較し、研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法を選択する。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤

		ミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。			遠藤
23	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
24	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
25	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
26	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
27	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
28	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
29	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤
30	研究方法の吟味	自分の研究課題で用いるデータの分析手順、分析方法のシミュレーションを通して、分析手順や方法の特徴を把握し、自分の研究に適用する場合の課題を明確にする。	学生によるプレゼンテーションと、ゼミ形式による討議。	プレゼンテーション準備	中村 菊地 遠藤

日付

教科書	なし
参考書	随時提示する
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	

実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	中村 康香：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 菊地 圭子：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 遠藤 恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護学特論演習		科目英語表記	Advanced Seminar on Perinatal Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子 教授 中村 康香 教授 遠藤 恵子					
科目責任者氏名	菊地 圭子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	選択			
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	4単位	
授業概要	周産期看護学特論で学習した概念および理論の研究への適用を理解するとともに、周産期看護学領域の文献のクリティークを通して、研究課題の明確化および研究目的に適した研究方法を立案する。					
到達目標	1. 周産期看護学領域の文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画が立案できる。 2. 研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。					
成績評価方法	到達目標1、2について以下の方法で評価する 各授業ごとのプレゼンテーション準備の取り組みとプレゼンテーションの実施状況 50% 授業内での討議への参加状況・発言・考察 50%					
成績評価基準	1. 周産期看護学領域の文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画が立案できる。 A; 文献のクリティークを十分行い、研究課題を明確にし、具体的で実行可能な研究計画が立案できる。 B; 文献のクリティークを行い、研究課題を概ね明確にし、概ね具体的で実行可能な研究計画が立案できる。 C; 文献のクリティークを行い、研究課題を概ね明確にするが、研究計画の具体性や実行可能性にやや欠ける。 D; 文献をクリティークするが、研究課題がやや不明確で、研究計画が不十分。 F; 文献をクリティークできず、研究課題を明確にできない。 2. 研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 A; 複数の先行研究を十分応用し、研究課題を達成するためにもっとも適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 B; 複数の先行研究を応用し、研究課題を達成するために適切な研究方法と具体的な倫理的配慮を検討できる。 C; 先行研究を応用し、研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できるが、やや具体性に欠ける。 D; 先行研究を応用し、研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できるが、具体性に欠ける。 F; 研究課題を達成するための研究方法と倫理的配慮を検討できない。					
授業形式	演習 対面授業を主とするが、適宜遠隔授業を取り入れる					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	先行研究（和文）のクリティーク 論文クリティークの実際	自分の研究に関連する和文の先行研究をクリティークする	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
2	先行研究（和文）のクリティーク 論文クリティークの実際	自分の研究に関連する和文の先行研究をクリティークする	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
3	先行研究（和文）のクリティーク 論文クリティークの実際	自分の研究に関連する和文の先行研究をクリティークする	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
4	先行研究（和文）のクリティーク 論文クリティークの実際	自分の研究に関連する和文の先行研究をクリティークする	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
5	先行研究（和文）のクリティーク 論文クリティークの実際	自分の研究に関連する和文の先行研究をクリティークする	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤

		を用いた先行研究について吟味する。			
25	研究計画の立案	研究課題に適応できる研究デザイン、研究方法、分析方法を用いた先行研究について吟味する。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
26	研究計画の立案	研究課題に適応できる研究デザイン、研究方法、分析方法を用いた先行研究について吟味する。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
27	研究計画の立案	研究課題に適応できる研究デザイン、研究方法、分析方法を用いた先行研究について吟味する。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
28	研究計画のプレゼンテーション	研究計画をまとめる。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
29	研究計画のプレゼンテーション	研究計画をまとめる。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤
30	研究計画のプレゼンテーション	研究計画をまとめる。	学生によるプレゼンテーションおよび討議	プレゼンテーション準備	菊地 中村 遠藤

日付

後日連絡

教科書	なし
参考書	随時提示する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊地：研究室5 kkikuchi@yachts.ac.jp 中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp 遠藤：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護展開論Ⅰ		科目英語表記	Advanced process of Maternal Health and Psychiatric Nursing I		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 非常勤講師 小嶋 由美					
科目責任者氏名	遠藤 恵子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期1年			
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修			
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	2単位	
授業概要	周産期にある母子と家族の健康状態や健康問題の臨床診断に必要な知識を教授するとともに、周産期にある母子と家族が正常経過からの逸脱を予防し、家族機能を発達させるような看護ケアを考察する。					
到達目標	1. 周産期にある母子と家族の健康状態や健康問題を、生殖内分泌、遺伝等の知識を用いて論理的に説明できる。 2. 周産期にある母子と家族が正常経過からの逸脱を予防し、家族機能を発達させるような看護ケアを考察できる。					
成績評価方法	授業内での討議の参加度 50%、レポート50%					
成績評価基準	到達目標1 A；周産期にある母子と家族の健康状態と健康問題を、生殖内分泌、遺伝等の知識を用いて論理的に具体的に説明できる。 B；周産期にある母子と家族の健康状態と健康問題を、生殖内分泌、遺伝等の知識を用いて論理的に説明できる。 C；周産期にある母子と家族の健康状態と健康問題を、生殖内分泌、遺伝等の知識を用いて説明できる。 D；周産期にある母子と家族の健康状態と健康問題を、生殖内分泌、遺伝等の知識を用いて説明できない。 F；生殖内分泌、遺伝等の知識を理解できない。 到達目標2 A；周産期にある母子と家族に対して、正常経過からの逸脱を予防し家族機能を発達させるような看護ケアを、信頼できる根拠をもとに具体的に考察できる。 B；周産期にある母子と家族に対して、正常経過からの逸脱を予防し家族機能を発達させるような看護ケアを、信頼できる根拠をもとに考察できる。 C；周産期にある母子と家族に対して、正常経過からの逸脱を予防し家族機能を発達させるような看護ケアを、考察できる。 D；周産期にある母子と家族に対して、正常経過からの逸脱を予防し家族機能を発達させるような看護ケアを考察するが不適切である。 F；周産期にある母子と家族に対して、正常経過からの逸脱を予防し家族機能を発達させるような看護ケアを考察できない。					
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	生殖内分泌①	周産期の生殖内分泌システム	講義	事後学習；講義の復習	前田
2	生殖内分泌②	周産期における生殖内分泌の異常と治療	講義	事後学習；講義の復習	前田
3	周産期の健康に影響する薬物①	胎児や妊婦に影響する薬物	講義	事後学習；講義の復習	蓬田
4	周産期の健康に影響する薬物①	母乳に影響する薬物	講義	事後学習；講義の復習	蓬田
5	周産期の遺伝看護①	妊娠出産と遺伝医療	講義、討議	事後学習；講義の復習	中込
6	周産期の遺伝看護②	意思決定と遺伝看護	講義、討議	事後学習；講義の復習	中込
7	正常からの逸脱を予防する妊娠期の看護①	適切な理論を適用し、妊婦自身が正常からの逸脱を予防する行動に向けた看護援助	事前学習をもとに討議	事前学習；事例のアセスメント、看護計画立案	遠藤
8	正常からの逸脱を予防する妊娠期の看護②	適切な理論を適用し、妊婦自身が正常からの逸脱を予防する行動に向けた看護援助	討議	事前学習；事例のアセスメント、看護計画立案	遠藤
9	新しい家族を迎えるための看護①	適切な理論を適用し、新しい家族を迎える行動に向けた看護援助	討議	事前学習；事例のアセスメント、看護計画立案	遠藤
10	新しい家族の形成に向けた看護②	適切な理論を適用し、新しい家族を迎える行動に向けた看護援助	討議	事前学習；事例のアセスメント、看護計画立案	遠藤

		護援助			
11	周産期看護における母性看護専門看護師の役割	周産期看護における母性看護専門看護師の活動の実際	講義、討議	事後学習；講義の復習	小嶋
12	周産期の健康保持増進を異常への移行を防ぐ母性看護専門看護師の役割①	周産期看護実習Ⅰの受け持ち事例について、アセスメント、看護計画、実践について評価・検討	討議	事前学習；事例検討に必要なサマリー作成	小嶋・遠藤
13	周産期の健康保持増進を異常への移行を防ぐ母性看護専門看護師の役割②	周産期看護実習Ⅰの受け持ち事例について、アセスメント、看護計画、実践について評価・検討	討議	レポート作成	小嶋・遠藤
14	周産期の健康保持増進を異常への移行を防ぐ母性看護専門看護師の役割③	周産期看護実習Ⅰの受け持ち事例について、アセスメント、看護計画、実践について評価・検討	討議	レポート作成	小嶋・遠藤
15	周産期の健康保持増進を異常への移行を防ぐ母性看護専門看護師の役割③	周産期看護実習Ⅰの受け持ち事例について、アセスメント、看護計画、実践について評価・検討	討議	レポート作成	小嶋・遠藤

日付

毎週月曜日 6 限目

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護展開論Ⅱ		科目英語表記	Advanced process of Maternal Health and Psychiatric Nursing II		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 菊地 圭子 教授 安保 寛明					
科目責任者氏名	遠藤 恵子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修			
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	2単位	
授業概要	女性のライフサイクル全般にわたる健康問題を解決する援助の基盤となる女性医療ケアの最新知識、障がいを通じた女性の健康を守るケアシステムや保健政策を理解し、根拠に基づく質の高いケアを考察する。					
到達目標	1. 女性のライフサイクル全般に生じる健康問題に対して、根拠に基づく質の高いケアを説明できる。 2. 質の高い女性医療ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を説明できる。					
成績評価方法	各授業の準備状況 50%、授業内の討議への参加度 50%					
成績評価基準	到達目標1 A；女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に対するケアについて、最新の信頼性の高い根拠に基づき具体的に説明できる。 B；女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に対するケアについて、最新の信頼性の高い根拠に基づき説明できる。 C；女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に対するケアについて、信頼性の高い根拠に基づき説明できる。 D；女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に対するケアについて説明できるが明確な根拠を説明できない。 F；女性のライフサイクル全般にわたる健康問題に対するケアについて、説明できない。 到達目標2 A；女性医療ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら具体的に多面的に説明できる。 B；女性医療ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら説明できる。 C；女性医療ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、現在の課題をふまえながら具体的に多面的に説明できる。 D；女性医療ケアに向けたケアシステムについて、現在の課題を説明できる。 F；女性医療ケアに向けたケアシステムや組織の構築のための方策を、説明できない。					
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	性感染症①	性感染症による女性の健康問題	討議	授業の復習	遠藤
2	性感染症②	性感染症に罹患した女性の看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；性感染症の看護ケアに関する論文の精読	遠藤
3	不妊①	不妊症の女性の健康問題	事前学習をもとに主に討議	不妊症の女性に対する看護ケアに関する論文の精読	遠藤
4	不妊②	不妊症の女性に対する看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；不妊症の女性に対する看護ケアに関する論文の精読	遠藤
5	糖尿病①	生涯にわたる糖尿病の健康問題	事前学習をもとに主に討議	事前学習；糖尿病の女性に対する看護ケアに関する論文の精読	遠藤
6	糖尿病②	糖尿病の女性の生涯にわたる看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；糖尿病の女性に対する看護ケアに関する論文の精読	遠藤
7	がん①	がん罹患した女性の健康問題	事前学習をもとに主に討議	事前学習；がん罹患した女性に対する看護ケアに関する論文の精読	菊地
8	がん②	がん罹患した女性に対する看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；がん罹患した女性に対する看護ケアに関する論文の精読	菊地
9	精神疾患のある女性に対する看護ケア①	精神疾患のある女性の健康問題	事前学習をもとに主に討議	事前学習；精神疾患を持つ女性の看護ケアに関する論文の	安保・遠藤

				精読	
10	精神疾患のある女性に対する看護ケア①	精神疾患のある女性に対する看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；精神疾患を持つ女性の看護ケアに関する論文の精読	安保・遠藤
11	性被害①	性被害を受けた女性の健康問題	事前学習をもとに主に討議	事前学習；性被害を受けた女性の看護ケアに関する論文の精読	遠藤
12	性被害②	性被害を受けた女性に対する看護ケア	事前学習をもとに主に討議	事前学習；性被害を受けた女性の看護ケアに関する論文の精読	遠藤
13	エビデンスに基づく女性に対する看護ケア	ガイドラインの活用	事前学習をもとに主に討議	事前学習；女性に対する看護ケアに関するガイドラインの理解	菊地
14	生涯を通じた女性の健康を守る制度	生涯を通じた女性の健康を守る法・施策	事前学習をもとに主に討議	事前学習；生涯を通じた女性の健康を守る制度	遠藤
15	男女共同参画社会に関する制度	男女共同参画社会に関する法・施策	事前学習をもとに主に討議	男女共同参画社会に関する制度の理解	遠藤
日付					

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子研究室
備考	

授業科目	周産期看護展開論Ⅲ	科目英語表記	Advanced process of Maternal Health and Psychiatric Nursing III		
職名、担当教員氏名	教授 菊地 圭子				
科目責任者氏名	菊地 圭子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	周産期医療における高度看護実践に必要な知識として、妊産婦及び児の正常からの逸脱時におけるおアセスメント、根拠に基づいた看護援助、エビデンスの臨床への適用、産科救急時の処置、周産期医療における多職種連携について考察する。				
到達目標	1. 周産期において正常からの逸脱時の、根拠に基づいた看護方法を説明できる。 2. 正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携の在り方や調整方法を考察できる。				
成績評価方法	講義の準備と討議の参加度 50%、レポート50%				
成績評価基準	到達目標1 A：周産期における正常からの逸脱時の看護ケアを信頼できる根拠をもとに具体的に説明できる。 B：周産期における正常からの逸脱時の看護ケアを信頼できる根拠をもとに説明できる。 C：周産期における正常からの逸脱時の看護ケアを説明できるが、根拠が不適切 D：周産期における正常からの逸脱時の看護ケアの説明が不十分 F：周産期における正常からの逸脱時の看護ケアの説明ができない 到達目標2 A：周産期における正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携のあり方や調整方法を具体的に説明できる。 B：周産期における正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携のあり方や調整方法を説明できる。 C：周産期における正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携のあり方や調整方法を説明できるが、根拠が不適切 D：周産期における正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携のあり方や調整方法の説明が不十分 F：周産期における正常からの逸脱時および産科救急時の他職種連携のあり方や調整方法の説明ができない				
授業形式	対面				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ハイリスク状態の妊産褥婦のアセスメント①	重篤な合併症や異常を持つ妊産褥婦のアセスメント	討議	事後学習；授業の復習	菊地
2	ハイリスク状態の妊産褥婦のアセスメント②	重篤な合併症や異常を持つ妊産褥婦のアセスメント	討議	事前学習；事例のサマリー作成	菊地
3	ハイリスク状態の妊産褥婦のアセスメント③	重篤な合併症や異常を持つ妊産褥婦のアセスメント	討議	事前学習；事例のサマリー作成	菊地
4	ハイリスク状態の妊産褥婦のアセスメント④	重篤な合併症や異常を持つ妊産褥婦のアセスメント	討議	事前学習；事例のサマリー作成	菊地
5	周産期救急における診断と処置①	分娩時出血の処置	講義・演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
6	周産期救急における診断と処置②	分娩時出血の処置	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
7	周産期救急における診断と処置③	分娩時出血の処置	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
8	周産期救急における診断と処置④	分娩時出血の処置	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
9	治療を必要とする新生児の管理と処置①	治療を必要とする児へのケア、家族へのケア、新生児蘇生	講義・演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット

10	治療を必要とする新生児の管理と処置②	治療を必要とする児へのケア、家族へのケア、新生児蘇生	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
11	治療を必要とする新生児の管理と処置③	治療を必要とする児へのケア、家族へのケア、新生児蘇生	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
12	治療を必要とする新生児の管理と処置④	治療を必要とする児へのケア、家族へのケア、新生児蘇生	演習	事前学習；関連するガイドライン等の理解	スポット
13	周産期他職種連携①	周産期カンファレンス	周産期医療センターで実施している周産期カンファレンスに参加		遠藤
14	周産期他職種連携②	周産期カンファレンス	周産期医療センターで実施している周産期カンファレンスに参加		遠藤
15	周産期他職種連携③	周産期カンファレンス	周産期医療センターで実施している周産期カンファレンスに参加		遠藤
16	周産期他職種連携④	周産期における多職種連携の課題	討議	事後学習；レポート 周産期における多職種連携に向けた母性看護CNSの役割	遠藤
17	総合周産期医療センター、MFICUの管理①	MFICUの管理	講義・討議		スポット
18	総合周産期医療センター、MFICUの管理②	MFICUの管理	講義・討議		スポット
19	がんを合併した妊産褥婦の看護①	事例を用いて看護ケアの検討	主に討議	事後学習；事例のアセスメント・看護計画立案	スポット
20	がんを合併した妊産褥婦の看護②	事例を用いて看護ケアの検討	主に討議	事後学習；事例のアセスメント・看護計画立案	スポット
21	がんを合併した妊産褥婦の看護③	事例を用いて看護ケアの検討	主に討議	事後学習；事例のアセスメント・看護計画立案	スポット
22	がんを合併した妊産褥婦の看護④	事例を用いて看護ケアの検討	主に討議	事後学習；事例のアセスメント・看護計画立案	スポット
23	周産期の感染症管理①	周産期病棟の感染管理対策	講義・討議		スポット
24	周産期の感染症管理②	周産期病棟の感染管理対策	討議		スポット
25	周産期の感染症管理③	周産期病棟の感染管理対策	討議		スポット
26	周産期の感染症管理④	周産期病棟の感染管理対策	討議		スポット
27	ハイリスク妊産褥婦の看護の検討①	事例検討	討議	事前学習；周産期看護実習Ⅱで受け持ちをした事例について、事例検討資料作成	遠藤
28	ハイリスク妊産褥婦の看護の検討②	事例検討	討議		遠藤
29	ハイリスク妊産褥婦の看護の検討③	事例検討	討議		遠藤
30	ハイリスク妊産褥婦の看護の検討④	事例検討	討議	事後学習；レポート 事例検討結果のまとめ	遠藤

日付

教科書	
参考書	

ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊地圭子：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護展開論Ⅳ	科目英語表記	Advanced process of Maternal Health and Psychiatric Nursing Ⅳ		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	倫理的問題をかかえる周産期の母子と家族に対する対応、心理社会的問題をかかえる周産期の母子とその家族への看護援助、関係する組織内外の職種や機関との協働連携の方法を教授する。				
到達目標	1. 周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対して、実践、倫理調整、相談、調整の機能を用いた看護援助方法を説明できる。 2. 周産期の問題を抱える対象者に関連する保健医療福祉のそれぞれの役割と、それぞれの機関が母性看護に期待する内容を把握し、周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できる。				
成績評価方法	講義の準備と討議の参加度 50%、レポート 50%				
成績評価基準	<p>到達目標 1</p> <p>A：周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護ケアを、実践、倫理調整、相談、調整の必要な機能を用いて信頼できる根拠をもとに説明できる。</p> <p>B：周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護ケアを、実践、倫理調整、相談、調整の必要な機能を用いて説明できる。</p> <p>C：周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護ケアを、説明できるが、実践、倫理調整、相談、調整の機能が不十分。</p> <p>D：周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護ケアを、説明できるが不適切。</p> <p>F：周産期の心理社会的問題をもつ妊婦・褥婦に対する看護ケアを説明できない。</p> <p>到達目標 2</p> <p>A：関連する機関や職種が母性看護に期待する内容を把握し、周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を具体的に考察できる。</p> <p>B：関連する機関や職種が母性看護に期待する内容を把握し、周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できる。</p> <p>C：周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できるが、関連する機関や職種の理解が不適切。</p> <p>D：周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できるが、関連する機関や職種の理解が不足。</p> <p>F：周産期医療現場における母性看護専門看護師の役割を考察できない。</p>				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	周産期の倫理課題①	事例を用いて倫理アセスメント	討議	事後学習；事例のまとめ	遠藤
2	周産期の倫理課題②	事例を用いて倫理調整の検討	討議	事後学習；事例に対する倫理調整の検討	遠藤
3	周産期の倫理課題③	事例を用いて倫理調整の検討	討議	事後学習；講義の復習	遠藤
4	周産期の倫理課題④	事例を用いて倫理調整の検討	討議	事後学習；授業の復習	遠藤
5	児童虐待①	児童虐待の動向、リスク要因	討議	事後学習；授業の復習	遠藤
6	児童虐待②	事例をもとに、看護援助の検討	討議	事前学習；事例に対する看護援助の検討	遠藤
7	児童虐待③	事例をもとに看護援助の検討	討議	事前学習；事例に対する看護援助の検討	遠藤
8	児童虐待④	事例をもとに看護援助の検討	討議	事前学習；事例に対する看護援助の検討	遠藤
9	身体的な障がいを持つ女性の妊娠育児の支援①	身体的な障がいをもつ女性の妊娠期育児期の健康問題	討議	事前学習；身体障がいの理解	遠藤
10	身体的な障がいを持つ女性の妊娠育児の支援②	身体的な障がいをもつ女性の妊娠期育児期を支援する機関	討議	事前学習；関係機関の特徴の理解	遠藤

11	身体的な障がいを持つ女性の妊娠育児の支援③	身体的な障がいをもつ女性の妊娠期育児期の看護援助	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
12	身体的な障がいを持つ女性の妊娠育児の支援④	身体的な障がいをもつ女性の妊娠期育児期の看護援助	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
13	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア①	医療的ケア児の支援体制	討議	事前学習；関係機関の理解	遠藤
14	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア②	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
15	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア③	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
16	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア④	在宅で看護や介護を必要とする子どもの親に対する看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
17	ペリネイタルロスを経験した親への支援①	ペリネイタルロスを経験した親への看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
18	ペリネイタルロスを経験した親への支援②	ペリネイタルロスを経験した親への看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
19	ペリネイタルロスを経験した親への支援③	ペリネイタルロスを経験した親への看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
20	ペリネイタルロスを経験した親への支援④	ペリネイタルロスを経験した親への看護ケア	討議	事前学習；事例に対する看護ケアの検討	遠藤
21	周産期看護における施設内の連携システム①	周産期看護における施設内の連携システムの現状と課題分析	討議	周産期看護における施設内の連携システム	遠藤
22	周産期看護における施設内の連携システム②	周産期看護における施設内の連携システムの現状と課題分析	討議	周産期看護における施設内の連携システム	遠藤
23	周産期看護における施設内の連携システム③	周産期看護における施設内の連携システム②の現状と課題	討議		遠藤
24	医療機関と地域の関係機関との連携システム②	医療機関と地域の関係機関との連携システムの現状と課題	討議		遠藤
25	医療機関と地域の関係機関との連携システム②	医療機関と地域の関係機関との連携システムの現状と課題	討議		遠藤
26	医療機関と地域の関係機関との連携システム③	医療機関と地域の関係機関との連携システムの現状と課題	討議		遠藤
27	二次医療機関と三次医療機関の連携と調整①		討議		遠藤
28	二次医療機関と三次医療機関の連携と調整②		討議		遠藤
29	二次医療機関と三次医療機関の連携と調整③		討議		遠藤

30	二次医療機関と三次医療機関の連携と調整④		討議		遠藤
日付					
後日連絡					

教科書	専門誌の論文等からその都度配布する。 その他必要なものを自分で収集する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護実習Ⅰ	科目英語表記	Advanced Maternal Nursing Practice I		
職名、担当教員氏名	教 授 遠藤 恵子 非常勤講師 小嶋 由美				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	講義や演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、健康問題を持つ妊婦・褥婦や、今後健康問題が生じる可能性が高い妊婦・褥婦に対して、包括的にアセスメントする能力、質の高い看護を実践する能力を獲得するための基礎的能力と、ケアの質の向上を自律的に目指すことのできる能力を養う。				
到達目標	1. 妊婦や褥婦に対して、アセスメント、護計画を立案し、必要な看護援助が実施ができる。 2. 今後の課題を明確化し、母性看護CNSとして課題解決にむけ行動できる。				
成績評価方法	日々の記録、レポートから総合して評価を行う。 ・健康問題の包括的アセスメント 40% ・健康問題解決に必要な根拠に基づく看護援助の実践 40% ・母性看護CNSの役割の考察 10% ・自己の活動の客観的評価 10%				
成績評価基準	到達目標1 A；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、今後起こる健康問題を予測し異常への移行を防ぐため根拠に基づいた具体的な看護援助が実施ができる。 B；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、今後起こる健康問題を予測し異常への移行を防ぐため根拠に基づいた看護援助が実施ができる。 C；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、今後起こる健康問題を予測し異常への移行を防ぐため看護援助が実施ができる。 D；妊婦や褥婦に対して、アセスメントに基づいた看護計画を立案するが、今後起こる健康問題を予測し異常への移行を防ぐため根拠に基づいた看護援助が実施ができない。 F；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントができない。 到達目標2 A；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ適切に行動できる。 B；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ行動できる。 C；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとして課題解決にむけ行動できる。 D；今後の課題は考察するが、母性看護CNSとしての考察を深められない。 F；今後の課題を明確化できない。				
授業形式	対面				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	身体的心理的社会的な問題を持つ妊婦や褥婦に対する母性看護CNSの看護実践	産科外来または産科病棟において、身体的心理的社会的な問題を持つ妊婦や褥婦や、今後問題が生じる可能性が高い妊婦や褥婦を受け持つ。受け持ち事例とその家族について包括的にアセスメントし、健康問題の解決や異常への移行を防ぐため、医師の診断や治療方針を理解し、ガイドライン等を活用し根拠に基づいた看護援助計画を立案し、看護援助を実施し、その一連の過程を評価する。 詳細は実習要項を参照	実習期間 1月 週4日を4週間以上 実習施設 済生会山形済生病院 産科外来・3A病棟 週1回は学内で科目担当教員、あるいは学外の担当教員から指導を受ける。 詳細は実習要項を参照	実習に必要と思うものを事前学習、実習において不足であったものを事後学習	遠藤 小嶋

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子研究室 研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護実習Ⅱ		科目英語表記	Advanced Maternal Nursing Practic Ⅱ		
職名、担当教員氏名	教 授 遠藤 恵子 非常勤講師 小嶋 由美					
科目責任者氏名	遠藤 恵子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野	学年	博士前期2年			
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修			
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	3単位	
授業概要	講義や演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦と家族に対して、包括的にアセスメントできる能力、質の高い看護を実践する能力、看護援助に必要な相談、調整、倫理的調整の能力を獲得するための基礎的能力と、ケアの質の向上を自律的に目指すことのできる能力を養う。					
到達目標	1. 生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦や褥婦に対して、アセスメント、看護計画を立案し、必要な実践・調整・相談・倫理調整が実施ができる。 2. 今後の課題を明確化し、母性看護CNSとして課題解決にむけ行動できる。					
成績評価方法	実習態度、日々の記録、レポートから総合して以下のように評価する ・包括的アセスメント、根拠に基づく生命危機の優先度を考慮した看護実践 20% ・時期、相手、内容について役割調整の検討と実施 20% ・適切な内容の相談の実施 20% ・倫理的課題の明確化と調整方法の検討 20% ・母性看護CNSの役割の考察 10% ・自己の活動の客観的評価 10%					
成績評価基準	到達目標1 A；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整を具体的に実施できる。 B；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整を実施できる。 C；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントに基づいた看護計画を立案し、母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整を実施するが不十分。 D；妊婦や褥婦に対して、アセスメントに基づいた看護計画を立案するが、母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整を実施できない。 F；妊婦や褥婦に対して、包括的なアセスメントができない。 到達目標2 A；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ適切に行動できる。 B；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ行動できる。 C；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとして課題解決にむけ行動できる。 D；今後の課題は考察するが、母性看護CNSとしての考察を深められない。 F；今後の課題を明確化できない。					
授業形式	対面					

授業計画						
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員	
-	生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦と家族に対する看護実践	母体搬送されたハイリスク妊産婦、NICUに入院している児と母親、心理社会的問題を抱える妊婦・褥婦、GDMやPIHなどの合併症や切迫早産・双胎妊娠の妊婦・褥婦といった生命の危機的状況にある母子や複雑な健康問題をもつ妊婦・褥婦を受け持ち、対象の持つ健康問題をアセスメントし、解決に必要な看護実践、緊急事態への対応、相談、調整、倫理的調整を自律して実践する。 詳細は実習要項を参照	実習期間 2年次 5月から7月 週4日を5週間以上 実習施設 山形県立中央病院 4階東病棟（産婦人科）MFICU NICU GCU 済生会山形済生病院 3B病棟 3A病棟 週1回は、学内で科目担当教員あるいは学外の担当教員から指導を受ける 詳細は実習要項を参照	実習の学習に必要なものを事前学習、また学習が不足だったものを事後学習する	遠藤 小嶋	

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子 遠藤恵子研究室 研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	周産期看護実習Ⅲ	科目英語表記	Advanced Maternal Nursing PracticⅢ		
職名、担当教員氏名	教 授 遠藤 恵子 非常勤講師 小嶋 由美				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	前期	単位数	5単位
授業概要	講義や演習、周産期看護実習Ⅰ・Ⅱで学んだ理論・知識・技術を応用・統合し、生命の危機状況にある母子や、複雑な健康問題をもつ周産期の対象に対するケアの質の向上に向け、看護調整、相談、倫理的調整、教育、研究の能力を養う。さらに、これらの実践、調整、相談、倫理的調整、教育、研究をとおして、リーダーシップを発揮する能力とともに周産期ケアの質向上のための変革を担う力を養う。				
到達目標	1. 高度で複雑な健康問題をもつ周産期の事例の健康問題解決に向け、母性看護CNSの役割が実施ができる。 2. 母性看護CNSの役割遂行に対する今後の課題を明確化できる。				
成績評価方法	日々の記録、レポートから以下の評価視点で評価を行う。 ① ケアにおける医師等と協働、根拠に基づく質の高いケア 10% ② 調整内容を明確化、調整のリーダーシップ 10% ③ 倫理的課題の明確化、倫理的調整実施の適切性 10% ④ 相談・助言の適切性 10% ⑤ 教育のニーズの明確化、適切な方法と内容の教育 10% ⑥ 研究課題の明確化、研究成果 10% ⑦ 母性看護CNSとしてのリーダーシップ・変革への提言 20% ⑧ 母性看護専門看護師として実践、相談、調整、倫理的調整、教育、研究の評価20%				
成績評価基準	到達目標1 A；母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究を具体的に適切に実施できる。 B；母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究を適切に実施できる。 C；母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究を実施するが不十分。 D；母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究を一部の役割しか実施できない。 F；母性看護CNSの役割に必要な実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究の多くの役割を実施できる。 到達目標2 A；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ適切に行動できる。 B；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとしての考察を深め課題解決にむけ行動できる。 C；今後の課題を明確化し、母性看護CNSとして課題解決にむけ行動できる。 D；今後の課題は考察するが、母性看護CNSとしての考察を深められない。 F；今後の課題を明確化できない。				
授業形式	実習				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	母性看護CNSの役割	質の高い看護実践、リーダーシップを発揮する能力と周産期ケアの質向上のための変革する能力を獲得する方策を見つけるため、実践、調整、倫理的調整、相談、研究、教育活動について、自律して実習計画を立案し実施する。 1) 実践 複雑な健康問題、特に医学的課題を強く有する周産期にある妊婦や褥婦や、今後リスクが生じる可能性が高い妊婦や褥婦を受け持ち、包括的にアセスメントし、ケア計画を立案実施し、ケアの評価を実施する。 2) 調整 実習病棟内の患者について、必要な役割調整を明確化し、最も効果的な方法を検討し、	実習期間 2年次 前期、週4日を8週間以上 実習施設 山形県立中央病院 MFICU、4階東病棟、NICU、GCU 週1回は学内で科目担当教員あるいは学外の担当教員から指導を受ける。 詳細は実習要項を参照		学習に必要なものを事前学習する。実習で学習不足であった点を事後学習する。

	<p>調整やカンファレンスを企画実施する。</p> <p>3) 倫理的調整 実習病棟内の患者について、事例の持つ倫理的課題を明らかにし、調整方法を検討する。</p> <p>4) 相談 看護スタッフからの看護ケアに関する相談に対するコンサルテーションを実施する。</p> <p>5) 教育 実習病棟の看護スタッフに対して必要な周産期看護に関する効果的な教育計画を立案し実施する。</p> <p>6) 研究 実習において課題と感じたテーマについて、先行研究や関係資料等から検討し、病棟に還元する研究活動を実施する。</p> <p>詳細は実習要項を参照</p>			
--	---	--	--	--

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	遠藤恵子 研究室20 kendo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	母性看護学課題研究	科目英語表記	Research on Maternal Nursing Issues		
職名、担当教員氏名	教授 遠藤 恵子 教授 菊地 圭子 教授 中村 康香				
科目責任者氏名	遠藤 恵子				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	母性看護CNS必修		
授業形態	演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	これまでの学修並びに看護実践で生じた疑問から、母性看護学領域における課題を見出し、課題解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。				
到達目標	1. 研究課題を焦点化し、課題追求方法を検討し、計画立案できる。 2. 収集したデータを分析し論理的にまとめることができる。 3. 看護実践の改善・改革を提言できる。				
成績評価方法	論文作成段階の参加状況 50% 論文 50%				
成績評価基準	到達目標1 A; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、適切な課題追求方法を選択し、具体的で適切な計画立案できる。 B; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、課題追求方法を選択し、計画立案できる。 C; 研究課題を実践活動の中から焦点化し、課題追求方法計画立案が不十分。 D; 研究課題を実践活動の中から焦点化するが、課題追求方法や計画立案ができない。 F; 研究課題を実践活動の中から焦点化できない。 到達目標2 A; 収集したデータを適切に分析し論理的にまとめることができる。 B; 収集したデータを分析し論理的にまとめることができる。 C; 収集したデータを分析しまとめることができる。 D; 収集したデータの分析やまとめやが不十分。 F; 収集したデータを分析しまとめることができない。 到達目標3 A; 看護実践の改善・改革を研究結果から母性看護CNSの視点で具体的に提言できる。 B; 看護実践の改善・改革を研究結果から母性看護CNSの視点で提言できる。 C; 看護実践の改善・改革を研究結果から提言できるが母性看護CNSの視点がかやや不足。 D; 看護実践の改善・改革を研究結果から提言できるが母性看護CNSの視点がかやや不足。 F; 看護実践の改善・改革の提言に母性看護CNSの視点がない。				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	研究の遂行	研究課題の明確化 研究計画書の作成および期日までに提出 倫理審査委員会申請書の作成および倫理審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発表	主に討議	研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成	遠藤恵子 菊地圭子 中村康香

教科書	
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3

関連	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	主研究指導教員
備考	履修上の注意 山形県立保健医療大学大学院課題論文審査に関する申し合わせに従うこと。 課題研究論文執筆にあたっては、山形県立保健医療大学大学院学位論文執筆規定を遵守すること。

授業科目	精神看護学特論Ⅰ	科目英語表記	Advanced Mental Health and Psychiatric NursingⅠ		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 講師 高谷 新				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	精神看護において卓越した役割を担うための理論を教授する。セルフケア理論と対人関係理論を基盤として精神看護におけるアセスメントの概念モデルを整理するとともに、自己決定と協働意思決定に関する概念モデルと整理するために自己受容、行動変容の核となる概念に加えてコンコーダンス（調和）モデルによる共同意思決定について教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連技法を学ぶ。 2. セルフケア理論と対人関係理論について理解する。 3. 自己受容と行動変容の核となる概念を述べることができ、実践例を述べられる。 4. 職種間連携について要諦を述べるができる。 5. コンコーダンス（調和）モデルにおける共同意思決定について述べられる。 				
成績評価方法	<p>評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価を行う。</p> <p>成績評価の方法として、</p> <p>知識・・・事例検討におけるレポートとプレゼンテーションを対象とする。</p> <p>技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。</p> <p>態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。</p> <p>なお、成績評価における配点割合は、プレゼンテーション 40% 事例検討におけるレポート 40% 受講態度 20%である。</p>				
成績評価基準	<p>到達目標1～5の各々について以下の基準で評価をするものとする。</p> <p>特に優れてる；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる</p> <p>良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる</p> <p>最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる</p> <p>目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	原則として対面授業。ただし遠隔授業になる場合もあります。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神看護に関する理論的基盤	教科書指定した書籍を基にしたディスカッション	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	3講で扱う論文の提示	安保
2	セルフケア理論 オレムのセルフケアモデル	セルフケア理論について（講義） 論文のクリティークについて	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。		高谷
3	論文のクリティーク①	クリティーク演習、ディスカッション	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	4講以降の講義で紹介する理論について決定	高谷
4	行動変容・行動強化に関する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション、事例検討	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。		高谷
5	行動変容・行動強化に関する理論	4講で扱った理論について、再プレゼン・ディスカッション、事例検討	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生		高谷

			同士あるいは教員と議論を行う。	
6	共同意思決定 Snowdenのコンコー ダンスモデル	共同意思決定に関する講義	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
7	共同意思決定 Snowdenのコンコー ダンスモデル	共同意思決定に関する事例検討	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
8	論文のクリティーク ②	関心のあるテーマに関連した研究についてプレゼンテーション・ディスカッションおよびクリティーク	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
9	論文のクリティーク ③	8講で扱った研究について、再プレゼン、クリティーク内容の整理	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
10	危機・ストレス・不 確かさの認知や対処 に関する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション・ディスカッション	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
11	危機・ストレス・不 確かさの認知や対処 に関する理論	10講で扱った理論について再プレゼン・ディスカッションおよび事例検討	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
12	病気・障害・人生の 体験を説明する理論	紹介する理論について各自からプレゼンテーション・ディスカッション	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
13	病気・障害・人生の 体験を説明する理論	12講で扱った理論について各自から再プレゼン・ディスカッションおよび事例検討	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
14	文献レビュー内容の プレゼン	レビューの内容のプレゼン・ディスカッション	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	高谷
15	理論的枠組みの統合 と整理	理論の整理と統合(プレゼンテーションとディスカッション)	原著論文もしくは教科書、参考図書で扱われている理論を用い事例検討等を行い、学生同士あるいは教員と議論を行う。	安保

日付

毎週水曜日3限目

教科書	精神看護に重要な影響をもつ理論に関する原著論文を元に講義を行うが、以下の書籍を教科書とする。 教科書：野川道子(編集), 看護実践に活かす中範囲理論, メジカルフレンド社
参考書	参考図書は以下の通りである。 1) 野末聖香, 宇佐美しおり, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) スチュアート, 精神科看護－原理と実践, エルゼビアジャパン 3) 南裕子他, セルフケア理論と看護実践, へるす出版 4) 安保寛明, コンコーダンス患者の気持ちに寄り添うスキル21, 医学書院

	5) ラザルス、ストレスと情動の心理学－ナラティブ研究の視点から、実務教育出版 上記以外の参考図書は、講義初回において紹介する。
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある 教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 高谷 新：研究室10 stakaya@yachts.ac.jp
備考	プレゼンテーションやレポートの効果的な方法については、各自で学ぶことが望ましい。メンタルヘルスに関する研究の特徴を考察することが望ましい。 演習は能動的に行うものになるとしますので、そのつもりでいらしてください。

授業科目	精神看護システム特論	科目英語表記	Advanced Mental Health and Psychiatric Recovery System		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の歴史を法制度について紹介するとともに、精神疾患を有する人の権利の尊重と社会的包摂の概念と実現のためのシステムを教授する。精神保健、障害福祉、司法、労働衛生等の関係法規と保健医療福祉における実践例を紹介する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の歴史について概要を説明できる。 2. 精神看護の展開に関与する精神保健医療福祉の法制度について説明できる。 3. 精神疾患を有する人の権利尊重と社会的包摂について概要を説明できる。 4. 精神疾患を有する人の権利尊重と社会的包摂に向けたシステムを説明できる。 5. 精神保健、障害福祉、労働衛生等の関係法規を説明できる。 6. 精神保健、障害福祉等の関係法規や制度の運用および実践例を述べられる。 				
成績評価方法	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20%				
成績評価基準	<p>プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20%</p> <p>いずれも、評価項目に対して教員と学生とで適格性を根拠とともに10段階で評価する。 項目1,2 講義で扱った重要用語（概念）を踏まえたシステムおよび事例の記述 項目3,4 概要の説明と事例の連動性 項目5,6 関係法規や制度の説明の正誤性</p> <p>プレゼンテーションやレポートは指導教員による改訂・改稿を行う。 各回において5段階評価とし、おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上とする。</p> <p>指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する的確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 プレゼンテーションやレポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて前述のように合意された評価基準によって評価する。 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。</p>				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神保健医療福祉の現況	・精神疾患を有する人を取りまく現行制度の概要（保護的処遇から地域精神保健へ） ・リカバリーモデル	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
2	精神保健医療福祉に影響する要因と類型	・生理心理社会モデルの提唱前後の歴史の変遷 ・心理社会的援助システムの類型（訪問、ピアサポート形成、心理社会的学習促進）に関する歴史の変遷	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
3	精神保健医療福祉の歴史と国際比較	・精神疾患および精神的危機の考え方の変遷 ・精神保健医療福祉の国内外における制度等の比較	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保

4	精神医療における諸制度と権利擁護(1)	・精神保健福祉法における入院と権利擁護 ・入院精神医療における倫理的課題	講義と演習（一部プレゼンテーション）	第1回レポート提出	安保
5	精神医療における諸制度と権利擁護(2)	・医療観察法対象者や触法者に関する精神保健上の制度 ・保護観察官や保護司など、地域における援助者との関係構築	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
6	精神保健に関連する諸制度(1)産業精神保健における予防	・労働安全衛生法とその適用（ストレスチェック制度、衛生管理者、産業精神保健における予防教育）	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
7	精神保健に関連する諸制度(2)産業精神保健における復職支援	・障害者職業センター、精神医療デイケアによる復職支援（職業リハビリテーションのプログラム構成と各制度上の位置づけ）	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
8	精神保健に関連する諸制度(3)産業精神保健におけるメンタルヘルスケア	・職場におけるメンタルヘルスケア（ラインケア、セルフケア、ソーシャルサポート） ・ワークエンゲイジメント	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
9	地域精神保健看護(1)社会モデルと援助	・自治体における社会的包摂への取り組み（施策審議会、ピアサポーター養成、ひきこもり対策、アウトリーチなど） ・自治体などによる当事者グループ形成支援 ・自助グループ、WRAP	講義と演習（一部プレゼンテーション）	第2回レポート提出	安保
10	地域精神保健看護(2)相談支援従事者養成	・相談支援従事者養成の概要 相談支援専門員研修の内容（ケアマネジメントサイクル、リカバリーモデル）	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
11	地域精神保健看護(3)相談支援と就労支援	・就労支援の類型（移行、継続等） ・就労支援におけるストレングスモデルとIPS(Individual Placement and support)	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
12	地域精神保健看護(4)相談支援と住居支援	・住まいと生活に関する支援の類型(グループホーム、訪問型支援、生活訓練) ・住まいにかかわる人たちによる対話型支援	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
13	精神面の配慮が必要な人々と配慮の概要	・養育関係における虐待と関連制度	講義と演習（一部プレゼンテーション）	第3回レポート提出	安保
14	精神保健に関連する諸制度(4)学校精神保健と予防	・スクールソーシャルワークとスクールカウンセリング ・発達障がいや不登校に関する援助	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
15	システムを踏まえた概念的整理	・システムを踏まえた臨床例の整理・理解 ・臨床例の概念的整理と統合	講義と演習（一部プレゼンテーション）	講義の内容を学習ノートにまとめるなどして、知識の獲得に努めること。	安保
日付					
毎週水曜日1限目					

教科書	専門誌に掲載された原著論文をもとにする。
参考書	1) チャールズAラップ, ストレングスモデル(第3版),金剛出版 2) 野中猛(監修)看護のための精神保健制度ガイド(第3版), 中山書店 3) 大熊一夫, 精神病院を捨てたイタリア捨てない日本, 岩波書店 4) ミケーレ・ザネッティ,精神病院のない社会をめざしてバザーリア伝, 岩波書店

	<p>5) 精神保健医療福祉白書編集委員会(編集), 精神保健医療福祉白書2017, 中央法規</p> <p>6) 経済協力開発機構, メンタルヘルスと仕事:誤解と真実-労働市場は心の病気にどう向き合うべきか, 明石書店</p> <p>7) 経済協力開発機構, 図表でみるメンタルヘルスと仕事-疾病、障害、仕事の障壁を打ち破る, 明石書店</p> <p>8) ヤーコ・セイックラ, オープンダイアログ, 日本評論社</p> <p>9) 小澤温, 埼玉県相談支援専門員協会, 相談支援専門員のための ストレンクスモデルに基づく障害者ケアマネジメントマニュアル: サービス等利用計画の質を高める, 中央法規出版</p> <p>10) 阪障害者センター, 本人主体の個別支援計画ワークブック-ICF活用のすすめ, かもがわ出版</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学特論演習	科目英語表記	Advanced Seminar on Psychiatric and mental health Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 講師 高谷 新 非常勤講師 佐藤 大輔				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年/博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義/演習	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	授業概要 精神看護学に関する学生の研究課題を中心に、演習形式で研究についての理解を深める				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関する先行研究を用いながら研究課題の意義について討論することができる。 2. 先行研究を用いて研究課題への活用や応用を検討することができる。 3. 研究目的を明確にし、研究目的に即した研究方法を検討することができる。 4. 研究目的のために適切なデータ収集方法を検討することができる。 5. 研究課題の実現に向けて、倫理上配慮すべき事項をまとめることができる。 				
成績評価方法	<p>評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価する。</p> <p>評価対象 知識・・・研究計画の立案と先行研究から把握する一シオンを対象とする。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 40% 受講態度 20%</p>				
成績評価基準	<p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標1、2、3に関する理解度（研究目的と方法の対応に関する確信など） ・到達目標4に関して、研究方法における信頼性や妥当性と研究方法のバランスの適格性 ・到達目標5に関して、研究目的に応じた倫理的配慮の適格性 （研究計画書における倫理的配慮の記述の適格性、各種の研究倫理ガイドラインとの対応の確信） <p>到達目標の各々について以下の基準で評価をするものとする。 特に優れてる；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる（到達目標1～3）研究計画として記述することができる（到達目標4、5） 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる（到達目標1～3）、研究計画として記述することができる（到達目標4、5） 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる（到達目標1～3）、研究計画として記述することができる（到達目標4、5） 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる（到達目標1～3）、研究計画として記述することができる（到達目標4、5） 目標に到達していない；説明できない</p>				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	ガイダンスおよび導入演習	精神看護学特論演習で行うことの解説・演習	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
2	研究課題の明確化と研究デザインの洗練（1）	精神保健および精神看護で取り扱う多くの事柄をどのように取り扱うことが望ましいかの議論を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
3	研究課題の明確化と研究デザインの洗練（2）	精神保健および精神看護で取り扱う多くの事柄をどのように取り扱うことが望ましいかの議論を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤

4	研究課題の明確化と研究デザインの洗練(3)	精神保健および精神看護で取り扱う多くの事柄をどのように取り扱うことが望ましいかの議論を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
5	研究課題の明確化と研究デザインの洗練(4)	精神保健および精神看護で取り扱う多くの事柄をどのように取り扱うことが望ましいかの議論を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
6	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(1)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
7	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(2)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
8	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(3)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
9	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(4)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
10	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(5)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
11	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(6)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	プレゼンテーションとレポートの作成	安保 高谷 佐藤
12	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法(7)	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。 データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安保 高谷 佐藤

13	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法（8）	研究デザインの洗練、特に研究におけるデータの収集方法と分析方法 質的・量的なデータの位置づけに関する議論を行う。データ収集方法について、先行研究や必要資料を用いて検討する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
14	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（1）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
15	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（2）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
16	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（3）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
17	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（4）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
18	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（5）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
19	研究デザインの洗練、特に海外および日本の先行例との比較（6）	Evidenceに関する理解	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	論文の精読、信頼性と妥当性などに照らした理解	安部 高谷 佐藤
20	研究デザインの洗練、特に倫理的側面（1）	研究デザインの洗練、特に倫理的側面 研究デザインについて、倫理的側面から研究方法の妥当性や必要な倫理的配慮について討論する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	倫理的配慮に関する精査	安部 高谷 佐藤
21	研究デザインの洗練、特に倫理的側面（2）	研究デザインの洗練、特に倫理的側面 研究デザインについて、倫理的側面から研究方法の妥当性や必要な倫理的配慮について討論する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	倫理的配慮に関する精査	安部 高谷 佐藤
22	研究デザインの洗練、特に倫理的側面（3）	研究デザインの洗練、特に倫理的側面 研究デザインについて、倫理的側面から研究方法の妥当性や必要な倫理的配慮について討論する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	倫理的配慮に関する精査	安部 高谷 佐藤
23	研究デザインの洗練、特に倫理的側面（4）	研究デザインの洗練、特に倫理的側面 研究デザインについて、倫理的側面から研究方法の妥当性や必要な倫理的配慮について討論する。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	倫理的配慮に関する精査	安部 高谷 佐藤
24	研究活動にまつわるプレゼンテーション（1）	研究デザインに関連する活動（予備調査等）について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安部 高谷 佐藤

25	研究活動にまつわるプレゼンテーション(2)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤
26	研究活動にまつわるプレゼンテーション(3)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤
27	研究活動にまつわるプレゼンテーション(4)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤
28	研究活動にまつわるプレゼンテーション(5)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤
29	研究活動にまつわるプレゼンテーション(6)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤
30	研究活動にまつわるプレゼンテーション(7)	研究デザインに関連する活動(予備調査等)について実践的な事項を行う。	学生各自の修士論文、課題研究論文のテーマ、研究計画や収集したデータを用いてディスカッションを中心とした演習を行う。	研究計画書の完成	安保 高谷 佐藤

日付

後日連絡

教科書	
参考書	第1回の際に紹介する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	プレゼンテーションやレポートの効果的な方法については、各自で学ぶことが望ましい。メンタルヘルスに関する研究の特徴を考察することが望ましい。 演習は能動的に行うものになると思いますので、そのつもりでいらしてください。

授業科目	精神機能学特論	科目英語表記	Advanced Mental Status and Functioning		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 非常勤講師 高橋 葉子 非常勤講師 後藤 剛				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	精神機能を多面的に評価するための方法を学ぶ。情動や行動などに見受けられる精神状態を精神機能の観点から査定する方法を多面的に学ぶ。心身相関を起こしやすい状態像を扱うとともに、生理心理社会面の原因・誘因による精神状態への影響と査定について取り扱う。				
到達目標	1. 精神状態を多面的に評価するための方法を述べられる。 2. 情動や行動から精神機能を査定する方法を述べ、一定の実践ができる。 3. 心身相関を起こしやすい状態像を具体的に述べられる。 4. 心理社会的な原因による精神状態への影響とその査定を述べられる。				
成績評価方法	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% レポート 60% 小演習における参加度 20%				
成績評価基準	プレゼンテーション 20% レポート 60% 小演習における参加度 20% 総合的に判断するが、おおむね 評価項目1・・・精神状態の多面的評価（方法と具体的分析） 評価項目2・・・精神機能査定の方法の記述・・・レポートにおける知識の適格性 評価項目3・・・心身相関を起こしやすい状態像の言及・・・プレゼンテーションとレポートにおける知識と技術との関係性の適格性 評価項目4・・・心理社会的な原因による精神状態への影響・・・レポートでの分析の適格性（知識）と、権利擁護などの面での被援助者に対する態度により評価する。 おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内（演習における技法の誤り1か所以内） 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内（同2か所以内） 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内（同3か所以内） 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上（同5か所以上）とする。 指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する的確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 レポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神健康	精神健康 精神健康の査定（WHO精神健康評価） 講義と小演習	講義と小演習を行う。 （追って指示する）	学習内容を学習ノートにまとめること	安保 高橋
2	精神機能分類	精神機能学における精神機能の分類（ICF） 講義と小演習	講義と小演習を行う。 （追って指示する）	学習ノートにまとめること。	高橋
3	精神発達と精神機能	心理社会的側面での精神発達と査定方法 （パーソナリティの獲得と生涯発達、コーピング評価）	講義と小演習を行う。 （追って指示する）	学習ノートにまとめること。	高橋
4	生活機能評価と精神機能	生活機能評価と精神機能（睡眠パターン評価、作業課題評価など） 講義と小演習（プレゼンテーション）	講義と小演習を行う。 （追って指示する）	学習ノートにまとめること。	高橋
5	心身相互作用	心身相互作用を引き起こしやすい状態像 講義	講義と小演習を行う。 （追って指示する）	学習ノートにまとめること。	高橋

6	心身相互作用	心身相互作用の査定 講義	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	レポート課題を課す	高橋
7	査定と観察	面接による精神健康度および 精神状態の査定 MSE(Mental State Examination) のうち意識お よび注意について 講義と小 演習	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	高橋 安保
8	査定と観察	面接による精神健康度および 精神状態の査定 MSE(Mental State Examination) のうち洞察そ の他について 講義と小演習	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	高橋 安保
9	査定と観察	観察による精神健康度および 精神状態の査定 MSE(Mental State Examination) 講義と小演習	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	レポート課題を課す	高橋 安保
10	精神科診断学 診断分類	精神科診断分類と精神機能 講義	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	後藤
11	精神科診断学 情動と診断	情動に関する疾病・症候群の 診断と鑑別講義	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	後藤
12	精神科診断学 認知と診断	認知機能に関する疾病・症候 群の診断と鑑別 講義	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	後藤
13	精神科診断学 意識と診断	意識障害を引き起こす疾病・ 症候群の診断と鑑別 講義	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	レポート課題を課す	後藤
14	面接による精神機能 のアセスメント	ロールプレイでの模擬査定 患者役を観察,質問して見立て る演習	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	高橋 安保
15	心理社会的アセスメ ント	せん妄および認知症状に関する 臨床検査 情動および気分に関する臨床 検査 重大なライフイベント, 災害 精神保健の観点での査定 心 理検査	講義と小演習を行う。 (追って指示する)	学習ノートにまとめること。	高橋 安保

日付

毎週木曜日 2 限目

教科書	1) 野末聖香, 宇佐美しおり(2007), 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) アメリカ精神医学会(2005)DSM-V 診断面接ポケットマニュアル, 医学書院
参考書	1) カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5診断基準の臨床への展開 第3版, メディカルサイエンスインターナショナル 2) 滝川一廣, 子どものための精神医学, 医学書院 3) 中井久夫, 看護のための精神医学 第2版, 医学書院 4) 稲田俊也, 観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド, じほう
ディプロマ・ ポリシーとの 関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のあ る教員	
実務経験をい かした教育内 容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学特論Ⅱ	科目英語表記	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing II		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神看護において卓越した役割を担うための関連技法を教授する。精神的困難を有する人に生じやすい倫理的課題と権利擁護について取り扱う。また職場のメンタルヘルスや回復過程の支援に有益な学習促進および動機づけに関連した技法を学ぶ機会とする。				
到達目標	1. 精神看護において卓越した役割を担うための理論と関連した技法を述べられる。 2. 精神的困難を有する人に生じやすい精神機能や倫理的課題を理解し、それらの観点から必要な技法を述べられる。 3. 個人および集団における援助の特徴を踏まえた技法を理解する。				
成績評価方法	評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・小テストを行う。技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 20%（理論的分析の適格性10%、理論と技法の一貫性10%） 小テスト 40%（知識項目20%、統合力20%） 演習 40%（各種技法の習熟度25%、対象者に合わせた倫理的・技術的調整性15%）				
成績評価基準	<p>評価対象：知識・・・小テストを行う。技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。</p> <p>評価基準 事例と理論の適合性をもとに、 プレゼンテーション 20%（理論的分析の適格性10%、理論と技法の一貫性10%） 評価項目2に関する内容とする。 小テスト 40%（知識項目20%、統合力20%） 実習目的と講義の内容から出題し、100点満点を40点満点に圧縮しておこなう。 評価項目1に関連した内容とする。 演習 40%（各種技法の習熟度25%、対象者に合わせた倫理的・技術的調整性15%） 技法の習熟度については、担当教員により100点満点で演習の内容を評価する。 評価項目2、3に関連した内容とする。（評価方法に記載した項目を用いる） 講義と演習から評価の指針（良質な臨床的行動）を提示する。 100点満点を40点満点に圧縮する。</p> <p>プレゼンテーションについては、指導教員による改訂・再演習を行う。 各回において5段階評価とし、おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上とする。 指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する的確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 プレゼンテーションやレポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて前述のように合意された評価基準によって評価する。 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。</p>				
授業形式	講義（対面だが一部はビデオ会議システムを用いた遠隔的な方法で行う）。 習熟度に合わせて演習を一部で用いる。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神看護における種々の技法の位置づけ	精神看護に関する理論的基盤の概要 生理心理社会モデルとの関連	講義・演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること。	安保

2	支持的面接技法	支持的面接技法	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
3	個人と集団（組織）のアセスメント促進技法(1)	インテイクに関連した質問技法 講義と演習	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
4	個人と集団（組織）のアセスメント促進技法(2)	ストレングスアセスメント	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
5	個人と集団（組織）のアセスメント促進技法(3)	ケースフォーミュレーションに有益な質問技法（1：個人要因） 講義と演習	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
6	個人と集団（組織）のアセスメント促進技法(4)	ケースフォーミュレーションに有益な質問技法（2：集団要因） 講義と演習	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
7	面接場面における対立の緩和 （1）アサーション	アサーションが必要な場面と具体的展開	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
8	面接場面における対立の緩和 （2）認知的対処	認知的対処の類型と方法 講義と演習	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
9	集団療法における種々の技法 （1）合意と同意の形成	安心の獲得に向けた合意形成	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保
10	集団療法における種々の技法 （2）目標設定	目標設定と不調和に対する援助技法	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保
11	集団療法における種々の技法 （3）動機づけ	動機づけ面接の構造と集団への応用	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保
12	学習促進に関する技法	心理教育の構造と応用 (英国リカバリーカレッジの構造)	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保
13	倫理調整で生じやすい技法	倫理的判断を進めるための構造 臨床倫理4分割法（Jonsenら）	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	高橋
14	ピアサポート促進に関する技法	ピアサポートグループの運営に有益な補助的技法 (リフレクティング、Tri a l o g u e)	講義	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保
15	共同意思決定に有益な技法	共同意思決定の過程と関連技法	講義と演習	自身で、事例と理論の整合性を精査し、必要に応じて担当教員にスーパービジョンを依頼すること	安保

日付

後日連絡

教科書	
参考書	1) ピーター・ディヤング, インスー・キム・バーグ, 解決のための面接技法—ソリューション・フォーカストアプローチの手引き, 金剛出版

	<p>2) 前田ケイ, 基本から学ぶSST 精神の病からの回復を支援する, 星和書店</p> <p>3) 厚生労働省, こころの耳-働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト, https://kokoro.mhlw.go.jp/</p> <p>4) 小谷英文, ダイナミック・コーチング-個人と組織の変革, PAS総合研究所</p> <p>5) Central and North West London NHS Foundation Trust,CNWL Recovery & Wellbeing College,http://www.cnwl.nhs.uk/recovery-college/</p> <p>6) チャールズラップ,リチャードゴスチャ, ストレングスモデル-リカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学特論III	科目英語表記	Advanced Mental Health and Psychiatric NursingIII		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 教授 蓬田 伸一 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神科における治療技法について生理・心理・社会モデルを念頭において体系的に学ぶ。身体・生理的観点から精神健康上の問題を捉えた身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入を学ぶうえでは精神科薬物療法、集団精神療法、行動療法といった心身相関を重視した専門的技法の全体像と有効な介入方法を教授する。また、心理社会モデルにもとづいた防衛機制や発達課題に端緒を發する種々の課題について、認知療法や社会的包摂を念頭に置いた治療過程について教授する。				
到達目標	1. 精神科における治療技法の全体像を述べられる。 2. 身体・生理的観点に基づく精神健康上の課題解決方法を述べられる。 3. 身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入としての精神科薬物療法と精神療法の特性を述べられる。 4. 心理社会的機能の改善を念頭に置いた介入としての精神療法や心理社会的治療技法について学ぶ。				
成績評価方法	授業中の参加態度・発言頻度、授業時のプレゼンテーション、課題レポートを総合して評価する。 プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20% 評価は、前述の評価項目(1-4)に応じて、 1. 治療技法の全体像に関する事項 2. 身体・生理的観点に基づく精神健康上の課題解決方法に関する事項 3. 身体機能と精神機能の向上を念頭に置いた介入としての精神科薬物療法と精神療法の特性 4. 心理社会的機能の改善を念頭に置いた介入としての精神療法や心理社会的治療技法 をそれぞれプレゼンテーションとレポートで評価する。 おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内(演習における技法の誤り1か所以内) 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内(同2か所以内) 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内(同3か所以内) 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上(同5か所以上)とする。 指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 レポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。				
成績評価基準	プレゼンテーション 40% レポート 40% 小演習における参加度 20%				
授業形式	講義(対面だが一部はビデオ会議システムを用いた遠隔的な方法を用いる) 習熟度に合わせて演習を一部で用いる				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神科治療と看護	精神科における治療と看護 講義	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションのそれぞれを復習すること。	安保
2	認知機能に対する治療(1) 認知モデルと認知行動療法	認知行動療法 講義と演習	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションの復習を行うこと。	高橋
3	認知機能に対する治療(2) 認知モデルとメタ認知療法	認知行動療法 講義と演習	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。	講義と演習、課題に関するプレゼンテーションの復習を行うこと。	高橋
4	精神科薬物療法 睡眠障害と不安障害	睡眠障害や不安障害に適用される薬物療法の作用 薬理相互作用 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。 (詳しくは別に指示する)	じゅうぶんに復習すること。	蓬田
5	精神科薬物療法 気分障害	気分障害に対して適用される薬物療法の作用	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。	じゅうぶんに復習すること。	蓬田

		薬理相互作用 講義	(詳しくは別に指示する)		
6	精神科薬物療法 身体機能と薬物動態	身体機能の変化に伴う向精神薬の薬物動態(体重変化、加齢、代謝機能変化等) 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	じゅうぶんに復習すること。	蓬田
7	リエゾン精神領域に関係する薬物療法	リエゾン精神の観点で処方/適用される薬物の作用 薬理相互作用 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	じゅうぶんに復習すること。小テストを課す場合がある。(追って指示する)	蓬田
8	リエゾン精神領域に関係する薬物療法(2)	リエゾン精神の観点で処方/適用される薬物の作用 薬理相互作用の査定 演習2	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	じゅうぶんに復習すること。	高橋 蓬田
9	精神科治療の概要	生理心理社会モデルと社会精神医学 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	スポット調整中
10	生理心理社会モデルにおける精神科治療学	総合病院精神医学における治療展開 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	スポット調整中
11	精神療法1	精神療法の種類と方略 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	スポット調整中
12	精神療法2	行動療法や生活療法の観点から見た精神療法 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	レポート課題を課す。(追って指示する。)	スポット調整中
13	集団精神療法	集団精神療法の種類と方略(集団認知行動療法を含む) 講義	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	安保
14	集団精神療法2	集団や社会参加を活用した治療の実際 演習	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	安保
15	社会技能訓練	社会技能訓練(SST)の治療的意義と方略 講義と演習	講義と課題に関するプレゼンテーションを組み合わせる。(詳しくは別に指示する)	追って指示する。	安保

日付

後日連絡

教科書	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Tusaie K, Fitzpatrick, J. Advanced Practice Psychiatric nursing, 2013, springer 2. Winston A (大野裕訳), 動画で学ぶ支持的精神療法入門, 医学書院 3. Stephen MS (仙波純一ほか訳), 精神薬学エッセンシャルズ 神経科学的基礎と応用 第3版, メディカルサイエンスインターナショナル 4. ジュディス・S・ベック, 認知行動療法実践ガイド: 基礎から応用まで, 星和書店 5. エイドリアン・ウェルズ, メタ認知療法: うつと不安の新しいケースフォーミュレーション, 日本評論社 6. Harris N., Baker J., Gray R., Medicines management in mental health management, 2009, wiley-blackwell 7. Wheeler K, Psychotherapy for the advanced practice Psychiatric Nurse, Mosby 8. 大野裕, はじめての認知療法, 講談社
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学特論Ⅳ	科目英語表記	Advanced Mental Health and Psychiatric NursingⅣ		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神科における治療技法に関連した精神看護における専門技法について学ぶ。心身相関、動機づけと学習支援、環境強化による精神機能の向上を念頭に置いた介入を学ぶ。個人および集団精神療法、認知行動療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進といった対人関係や自己動機づけの観点から専門的技法の全体像と有効な介入方法を教授する。				
到達目標	1. Oremのセルフケア理論、Stuartのストレス対処モデル、Snowdenのコンコダンスモデルが示す精神看護における理論と技法の関連を理解する。 2. 動機づけ、学習支援、環境強化による精神機能の向上のための介入を理解する。 3. 個人精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進の具体的な方法を述べられる。 4. 個人精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進のうちいずれかについて有効な介入方法が実践できる。				
成績評価方法	評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・レポートを行う。技術・・・レポートと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% レポート 40% 演習 40%				
成績評価基準	評価対象：知識・・・レポートを行う。 技術・・・レポートと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 評価項目 1. セルフケア理論、ストレス対処モデル、コンコダンスモデルを用いた事例の記述（理論適用の適格性など） 2. 動機づけ、学習支援、環境強化などの援助方略の記述（目的と方法の一致性など） 3. 個人精神療法、行動療法、家族支援およびピアサポート促進の具体的な方法の記述（具体性） 4. 評価項目3に登場する介入方法の実践（演習における行動） おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内（演習における技法の誤り1か所以内） 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内（同2か所以内） 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内（同3か所以内） 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上（同5か所以上）とする。 指導教員による改訂・改稿を行うなどして、各学習項目に関する確性の高い記述・理解に関する合意を図る。 レポートは改訂を2度行い、最終的な提出されたレポートについて 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。				
授業形式	講義（対面だが一部はビデオ会議システムを用いた遠隔的な方法で行う）。 習熟度に合わせて演習を一部で用いる。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	精神看護の専門性と技法	精神看護の専門性に含まれる機能と技法の関係	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
2	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法 1) ナラティブアプローチ 講義と演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
3	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法 2) 合意形成、共同意思決定 講義と小演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
4	個人療法の基盤	個人療法における関係発展と技法	講義と小演習	演習に基づいたレポートを課す	安保

		演習			
5	課題解決に向けた相談技法 解決志向ブリーフセラピー	解決志向ブリーフセラピーの基盤 核となる質問の展開 講義と小演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
6	課題解決に向けた相談技法 解決志向ブリーフセラピー（2）	解決志向ブリーフセラピーの応用 核となる質問の展開 講義と小演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
7	事例検討	ゲートキーパー研修を活用した 初期対応と個別面談演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
8	認知行動療法に関する技法 1) 認知理論の基礎	認知モデルに関する基礎的基盤 講義と演習	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
9	認知行動療法に関する技法 1) 認知理論の基礎（2）	認知モデルに関する基礎的基盤 講義と演習（2）	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
10	認知行動療法に関する技法 2) 論理療法・感情の対処	認知モデルをもとにした援助 講義と演習	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
11	認知行動療法に関する技法 2) 論理療法・感情の対処	認知モデルをもとにした援助 講義と演習	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
12	認知行動療法 3) 認知行動療法	認知行動療法の概要	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
13	認知行動療法 3) 認知行動療法（2）	認知行動療法の事例をもとにした演習・事例検討	講義と小演習	復習を行うこと。	高橋
14	自己管理強化にむけた技法 1) W R A P	W R A P（Wellness Recovery Action Plan）の概要・学習支援による自己管理強化	講義と小演習	復習を行うこと。	安保
15	自己管理強化にむけた技法 2) 心理教育・家族心理教育	心理教育と家族心理教育 講義と演習	講義と小演習	復習を行うこと。	安保

日付

後日連絡

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 1) 宮坂道夫, 対話と承認のケア:ナラティブが生み出す世界, 医学書院, 2020 2) エイドリアン・ウェルズ, メタ認知療法: うつと不安の新しいケースフォーミュレーション, 日本評論社 3) アラン・S. ベラック, わかりやすいSSTステップガイドー統合失調症をもつ人の援助に生かす, 星和書店 4) ウィンデドライデン, 実践論理療法入門ーカウンセリングを学ぶ人のために, 岩崎学術出版社 5) アルバートエリス, どんなことがあっても自分をみじめにしないためにはー論理療法のすすめ, 川島書店
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護展開論Ⅰ	科目英語表記	Advanced process of Mental Health and Psychiatric Nursing II		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS 選択必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	地域精神看護の理論と技法について取り扱う。 訪問看護やデイケアといった個別および集団による精神疾患患者に対する援助の要諦を示すとともに、家族支援やピアサポート育成による人間関係による権利擁護と行動変容について紹介し、地域啓発および職種および地域間連携における文化的越境がもたらす意味について解説する。行政機関に所属する保健医療職者の機能と協同についても解説する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域精神看護の展開に意義のある理論と技法について概要と適用例を述べられる。 2. 訪問看護などによる個別支援における援助の要諦を述べられる。 3. デイケアなどによる集団による援助の要諦を述べられる。 4. 家族支援やピアサポート育成等の当事者を取り巻く人間関係を強化することでの権利擁護と行動変容について述べられる。 5. 職種および地域間連携における文化的越境がもたらす意味を述べられる。 6. 行政機関に所属する保健医療職者の機能と協同について述べられる。 				
成績評価方法	<p>評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・小テストを行う。技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 プレゼンテーション 20% 小テスト 40% 演習 40%</p>				
成績評価基準	<p>評価対象：知識・・・小テストを行う。技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・演習における行動、プレゼンテーションを総合して評価する。 事例をもとに、アセスメント、援助（直接、間接など）、援助の洗練のための方法（ミーティングやSV）の具体例とその背景となる根拠を記述できることをもとに評価する。</p> <p>評価項目1. 理論と技法に関する概要と適用例 評価項目2. 個別支援における援助の要点（事例に対する援助計画の適格性） 評価項目3. 集団療法の援助の要点（事例に対する援助構造の分析の適格性、理論的側面の記述） 評価項目4. 当事者の支援システムによる権利擁護と行動変容の関係に関する記述（事例の記述とその事例に求められる概念的背景の記述） 評価項目5. 文化的越境の意味に関する記述の適格性（文化的越境の意義に関する文献と事例の相同性の記述） 評価項目6. 行政機関に所属する保健医療職者に関する機能の記述（官民連携に関する文献・概念の記述） いずれも、概念・理論的背景をプレゼンテーション、演習時のカンファレンス、レポートにおいて4か所程度記述できることを求めるものとする。</p> <p>おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内（演習における技法の誤り1か所以内） 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内（同2か所以内） 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内（同3か所以内） 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上（同4か所以上）とする。</p> <p>詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。</p>				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	エンパワメントと回復モデル	地域精神看護における当事者性と専門性の課題 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	講義と演習を踏まえて別な事例への援助を構築できること	安保
2	地域精神看護における援助基盤 (1)ICM,ACTのエビデンス	Assertive Community Treatmentによる地域支援の効果(再入院予防など) 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	事例をもとに根拠と援助が記述できるように準備すること	安保
3	地域精神看護における援助基盤 (2)ICM,ACTのフィード	効果を挙げる地域支援が有する組織的要件 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	第2回と同じ	安保

	リティ				
4	地域精神看護における援助基盤 (3)Day Hospital, IPSの意義	国内外における通院型治療環境の類型と支援（デイケアや就労支援） 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	第3回と同じ	安保
5	地域精神看護における援助基盤 (4)Individual Placement and Supportの意義	国内外における就労支援などの場の支援 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	第2回と同じ	安保
6	地域精神看護における援助基盤のまとめ	上記(1)から(4)に関するプレゼンテーションと討議	講義と演習（事例を含む）	第1－6回の内容を整理すること	安保
7	個別支援の援助基盤	意思決定モデルとエンパワメント 講義	講義と演習（一部で事例を含む）	事例を記述できること	安保
8	個別支援の援助基盤	二者間での合意形成、職業リハビリテーションを例に講義と小演習	講義と演習（一部で事例を含む）	第7回と同じ	安保
9	地域精神看護における事例検討	事例検討 プレゼンテーションと演習	講義と演習（一部で事例を含む）	発展的な記述を試み、教員と精査すること	安保
10	当事者を取り巻く人々への援助 (1)家族支援	家族心理教育 講義と小演習	講義と演習（一部で事例を含む）	事例を記述し、概念との対応ができるように精査すること	安保
11	当事者を取り巻く人々への援助 (2)ピアサポート支援	ピアサポート支援 講義と小テスト	講義と演習（小テスト）	復習をおこなうこと	安保
12	地域定着と回復促進：連携と越境 (1)職種間連携	職種間連携の意義 講義と演習	講義と演習（一部で事例を含む）	学習ノートを整理事務すること	安保
13	地域定着と回復促進：連携と越境 (2)地域間協働	地域間協働がもたらす活動の意義 主体性喚起など 講義と演習	講義と演習（一部で事例を含む）	学習ノートを整理事務すること	安保
14	地域定着と回復促進：連携と越境 (3)公民連携	公民の連携の具体例 ひきこもり支援など 講義と演習	講義と演習（一部で事例を含む）	学習ノートを整理事務すること	安保
15	連携と越境の事例検討	事例検討 プレゼンテーションと演習	講義と演習（一部で事例を含む）	本科目の内容を整理した学習ノートを作成すること	安保
日付					
後日連絡					

教科書	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) ラップCA, ストレングスモデル[第3版]ーリカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版 2) リバーマンRP, 精神障害と回復：リバーマンのリハビリテーション・マニュアル, 星和書店 3) 西尾雅明, ACT入門ー精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム, 金剛出版 4) 三品桂子, 重い精神障害のある人への包括型地域生活支援: アウトリーチ活動の理念とスキル, 学術出版会 5) 伊藤順一郎, 精神科病院を出て、町へーACTがつくる地域精神医療, 岩波書店 6) 香田真希子, IPSを学ぶ ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方, 中島映像教材出版 7) 伊藤順一郎, 伊藤順一郎・精神科アウトリーチ論, 中島映像教材出版 8) 石川清, ドキュメント・長期ひきこもりの現場から, 洋泉社 9) 境泉洋, 野中俊介, CRAFT ひきこもりの家族支援ワークブックー若者がやる気になるために家族ができること, 金剛出版
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	

教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護展開論Ⅱ	科目英語表記	Advanced process of Mental Health and Psychiatric Nursing II		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年／博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS 選択必修		
授業形態	講義	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	リエゾン精神看護の対象となる症状やステージ、精神的問題を持った個人と家族へのアセスメントと援助法を、理論を用いながら学習する。その際、倫理的観点から問題に対応できる能力も培う。 医療者の精神保健問題を組織の視点を含めて総合的にアセスメントし、援助方法を探求する。さらに以上を通して、精神看護専門看護師の役割と機能に関して理解を深める。				
到達目標	1. 精神看護専門看護師の役割と機能、責任について説明できる。 2. 身体疾患患者に見られる代表的な精神的問題と診立て、援助方法を理解する。 3. ストレス時の精神・身体症状の関連が理解できる。 4. 緩和医療でのリエゾン精神看護師の役割と機能を説明できる。				
成績評価方法	評価方針：知識、技術、態度（Knowledge, Skills, Attitude）の3側面によって評価する。 評価対象：知識・・・小テストを行う。技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・プレゼンテーション、ディスカッションへの取り組み方を総合して評価する。 プレゼンテーション 20% ディスカッション 20% 小テスト 30% レポート30%				
成績評価基準	評価対象：知識・・・小テストを行う。 技術・・・小テストと演習における行動を対象とする。 態度・・・プレゼンテーション、ディスカッションへの取り組み方を総合して評価する。 知識、技術、態度の評価割合は、原則的に25%：45%：30%とする。 面接（あるいは関連する技術）に関する演習を行った際の記録をもとに、関連する概念を記述しながら技術の洗練に必要な事項を記述できることを評価する。 項目1. 専門看護師の役割と機能と責任に関する概念の言及（4項目以上） 項目2. 身体疾患における精神的問題、診立て、援助技法の言及（2事例以上で問題、診立て、援助技法の適格性（6項目以上）） 項目3. ストレス時の精神・身体症状の関連が理解できる。（小レポートの記述における論理的（理論的）適格性（改稿の必要度）） 項目4. 緩和医療でのリエゾン精神看護師の役割と機能の説明（役割2項目以上、機能2項目以上） おおむね 評価S・・・5%以下の改稿 評価A・・・10%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り1か所以内（演習における技法の誤り1か所以内） 評価B・・・20%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り2か所以内（同2か所以内） 評価C・・・30%以下の改稿、キーワードとなる概念の誤り3か所以内（同3か所以内） 評価D・・・30%以上の改稿、キーワードとなる概念の誤り5か所以上（同4か所以上）とする。 詳しい評価の過程は第1回の講義の際に提示する。				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	Introduction:リエゾン精神看護に関する理論的基盤の概要	リエゾン精神看護専門看護師の目的、役割、機能（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後にレポートを提出すること。	高橋
2	リエゾン精神看護専門看護師に必要な理論	精神力動理論、ストレス・コーピング理論、危機理論、心身相関に関する理論、セルフケア理論、システム理論（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後にレポートを提出すること。	高橋

3	リエゾン精神看護専門看護師に必要なアセスメントスキル	身体疾患がある人に対する精神状態・精神健康度の査定、心身相関の査定（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
4	リエゾン精神看護の対象となる症状とケア①	不安状態にある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
5	リエゾン精神看護の対象となる症状とケア②	怒りや攻撃性のある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
6	リエゾン精神看護の対象となる症状とケア③	うつ状態、躁状態にある人、希死念慮、自殺念慮がある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
7	リエゾン精神看護の対象となる症状とケア④	せん妄状態にある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
8	リエゾン精神看護の対象となる症状とケア⑤	トラウマの問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
9	リエゾン精神看護の対象となるステージとケア①	終末期・緩和ケアに伴う精神的問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
10	リエゾン精神看護の対象となるステージとケア②	妊娠・出産に伴う精神的問題がある人とそれを取り巻く人々へのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後で小テストを行うので準備しておくこと。	高橋

11	リエゾン精神看護における家族へのケア	精神的問題を抱える患者の家族、家族自身が精神的問題を抱えるケースへのケア（講義、プレゼンテーション、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 学生同士で項目毎に分担を決め、担当箇所をプレゼンすること。 当該項目の後に小テストを行うので準備しておくこと。	高橋
12	リエゾン精神看護における倫理調整①	精神的問題を抱えるケースの意思決定支援、医療者間の葛藤があるケース等への介入（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に事例とワークシートを提示するので、それに沿って分析し、発表すること。	高橋
13	リエゾン精神看護における倫理調整②	モデル事例を用いての事例検討、ディスカッション	講義と小演習	事前に事例とワークシートを提示するので、それに沿って分析し、発表すること。	高橋
14	リエゾン精神看護における看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスを取り巻く状況の理解と支援方法（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後にレポートを提出すること。	高橋
15	リエゾン精神看護におけるチーム医療と組織開発	リエゾンチームの運営、他職種との役割分担、他の専門看護師や認定看護師との協働、所属組織内での役割開発のあり方（講義、ディスカッション）	講義と小演習	事前に教科書の該当箇所、関連文献を読んでおくこと。 当該項目の後にレポートを提出すること。	高橋
日付					
後日連絡					

教科書	野末聖香, リエゾン精神看護, 2010 日本精神看護師協議会監修: 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会, 2009
参考書	平井元子: 身体疾患患者の精神看護ーリエゾナーズへの相談事例に学ぶ, へるす出版, 2013 1) 平井元子: リエゾン 身体と心をつなぐかわり, 仲村書林, 2014
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明, hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学実習Ⅰ	科目英語表記	Advanced Psychiatric Nursing PracticeⅠ		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	1単位
授業概要	精神保健看護学における諸理論と技法を踏まえて、精神障害をもつ人とその周囲の人々への高度専門的看護実践について参加観察体験を通して学び、専門看護師の役割機能について探求する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関における専門看護師の活動への参加観察を通して学んだ専門看護師の役割と機能について説明できる。 2. 各自の問題意識と関心に沿って学習を深めながら、高度専門的看護実践を行う上での自らの課題を言語化できる。 3. 精神科における専門看護師の役割とその機能について、治療場の構造や文化、職員同士の人間関係も踏まえながら考察し、レポートにまとめることができる。 				
成績評価方法	<p>成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。 記録とカンファレンスなどから実習状況を評価する。 評価の割合は実習要項に記載する。</p> <p>特に、専門看護師の役割に関する理解と実践上の意義と機能に関する理解を評価する。</p>				
成績評価基準	評価方法と基準：実習要項に記載する。				
授業形式	<p>実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。 教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。 実習は原則的に対面で行う。カンファレンスの一部はビデオ会議システムを使用する場合がある。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題に沿って、学習の目標、内容、方法を計画し事前に提出する。 2. 精神看護専門看護師の実践を観察し、事前に学んだ専門看護師の6つの役割に照らして機能と意義を記述する。 3. 専門看護師の所属機関における専門看護師の役割と機能について、専門看護師およびその周囲の人々から洞察する。 4. 自分自身の行動や観察内容を記録や口述によって表明し、実習指導者や指導教員からスーパービジョンを受けて学習に活かす。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：週末を除いた6日間（例：水曜日から翌週水曜日まで、あるいは毎週水・金×3週間など）。 2. 実習場所： 横浜市立病院、みやぎ県南中核病院、東京都立松沢病院、訪問看護ステーション なごみ 3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時15分～16時15分）とする。ただし、実習施設との相談により、設定の変更がありうる。 4. 実習の詳細については実習要項に記載するとともに、オリエンテーション時に説明する。 	<p>実習 臨床活動への参加、専門看護師の臨床活動の見学、カンファレンスへの参加などを含む。</p>	<p>精神看護学特論などで用いた教科書や資料を事前に整理すること。</p>	<p>安保 高橋</p>

教科書	<p>野末聖香, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 南裕子監修, 宇佐美しおり, 精神科看護の理論と実践—卓越した看護実践をめざして, ニューヴェルヒロカワ 南裕子, 稲岡文昭, セルフケア概念と看護実践, へるす出版</p>
-----	--

参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期 1 / 博士前期 2 / 博士前期 3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学実習Ⅱ	科目英語表記	Advanced Psychiatric Nursing Practic II		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神科医療施設において、精神科診断と精神科における治療と看護の実際について、見学・参加を通して学び、精神看護専門看護師としての専門的な高度実践能力を身に付ける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療における診断法と治療法について、系統的に整理および記述を行う。 2. 精神科で行われる治療の概要を整理するとともに、特に薬物療法で用いられる薬剤について、各々のメリット、デメリット、留意点について説明することができる。 3. 受け持ち患者に関する医学診断と心理査定、実施されている治療及び看護と、自らの実習体験を統合して、レポートを作成することができる。 				
成績評価方法	<p>成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神科で行われる診断過程と治療過程に関する理解と医療チームにおける精神科看護師の協働と貢献に関する理解を評価する。</p> <p>評価には、以下の2つの方法を主に用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習態度及びカンファレンスでの行動 2. 実習記録 				
成績評価基準	評価方法と基準：実習要項に記載する。				
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	<p>[学習の進め方]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題に沿って、実習の目標、内容、方法について計画する。 2. 年度当初に行う事前学習の進捗をもとに、精神科外来で行われる診断過程と治療決定の過程に関する実習とする。 3. 予診、個別精神療法、集団精神療法、認知行動療法、心理教育などの各種の治療に関して、医師、臨床心理士、作業療法士、看護師の協力や助言を得て実習を行う。 4. 直接の関わりによって得た内容はフィールドノートを作成し、精神状態の査定を行う。医学的あるいは心理学的な理解を深める機会を持つこととする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：原則として、1年次の9月から12月までの4ヶ月間のうち、週2日間を5週間あるいはどちらかの曜日に10週間（全10日） 2. 実習場所： 山形県立こころの医療センター こころのクリニックOASIS 山形さくら町病院 のうちいずれか一か所 3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時15分～16時15分）とする。ただし、実習施設との相談により、設定の変更はありうる。実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明する。 	<p>実習 臨床実習とし、実習先での臨床行動への同席などをもって学習する。 実習期間中にケースカンファレンスを行うほか、事前事後には学習予定や学習過程に関するカンファレンスを行う。</p>	<p>事前事後ともに学習ノートを作成し、予習復習ともに十分に行うこと。</p>	<p>安 保 高 橋</p>

5. フィールドノーツなどの記録をもとに、実習指導者や指導教員からスーパービジョンを受ける。				
--	--	--	--	--

教科書	スチュアート, 精神科看護—原理と実践, エルゼビアジャパン
参考書	参考図書： 1) Tusaie K, Fittzpatrick,J. Advanced Practice Psychiatric nursing,2013. springer 2) 土井健郎(1992), 方法としての面接 臨床家のために, 医学書院 3) エリクソンEH(1997), ライフサイクルその完結, みすず書房 4) アメリカ精神医学会 (2005) DSM-V診断面接ポケットマニュアル, 医学書院 5) 山内俊雄, 鹿島晴雄 (2015) 精神・心理機能評価ハンドブック, 中山書店
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学実習Ⅲ	科目英語表記	Advanced Psychiatric Nursing PracticⅢ		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期1年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	精神的困難をもつ人とその家族や重要他者に対して、精神看護で有益な諸理論および概念モデルを活用して、患者の生理・心理・社会的状況をアセスメントする。受け持ち看護師、看護師チーム、多職種チーム、地域連携などの治療およびケアの構造を把握しながら高度な看護ケアを展開する能力を培う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療の現場で、患者や家族などの他者と自分との心理的相互作用を検討し、経験に伴う心理および行動面の反応を言語化することができる。 2. 精神機能のアセスメントを通じて精神健康度を吟味する。 3. 精神健康の低下がもたらす生理心理社会的な影響を理解し、健康増進と治療および看護の観点から援助を構築することができる。 4. 援助者としての自己の傾向や特性に気づき、ケアに及ぼす影響を考察できる。 5. ケアの現場における倫理的配慮について考え、建設的な提案ができる。 				
成績評価方法	<p>成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。 記録とカンファレンスを評価に用いる。 基本的な評価の割合は実習要項に記載する。</p> <p>特に、精神的治療およびケアを必要とする人に関するアセスメントと援助に関する内容を評価する。</p>				
成績評価基準	評価方法と基準：実習要項に記載する。				
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	<p>1. 治療および看護を必要とする患者を1-2名受け持ち、精神状態や生活機能、社会関係に関する査定を、精神機能評価や精神健康度、精神力動およびストレス対処、等の観点からアセスメントする。</p> <p>2. 患者をとりまく人間関係をもとに、患者自身および患者の周囲の人々に対する援助について看護計画を立案する。</p> <p>3. 実習期間中におこなう検討によってアセスメントの整理をおこなうほか、追加のアセスメントの方向性を検討する。</p> <p>4. 患者の精神健康度が低下するにいたった要因および誘因として重要な観点を整理し、介入計画を立案する。</p>	<p>1. 実習期間：原則として、週2日で10週間または週1日で20週間（全20日）。</p> <p>2. 実習場所： 山形大学医学部附属病院 精神科病棟 社会医療法人二本松会 山形さくら町病院 訪問看護ステーションなごみおよび 相馬広域こころのケアセンターのうち1か所</p> <p>3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時15分～16時15分）とする</p> <p>4. 診療場面に立ち会うほか、治療ユニット内（病棟やデイケアなど）でフィールドワークを行いながら患者と関わり、精神機能、精神症状、治療効果、心理社会的内容のアセスメントを行う。担当教員や臨床指導者による週1回以上のスーパービジョンを受け、実習を進める。</p> <p>5. 実習最終回には、受け持ち事例のプレゼンテーション</p>	<p>実習 （臨床活動への参加やカンファレンスを含む）</p>	<p>実習経験を記録に記述する際に、理論・概念などをもとに学習内容を洗練すること。</p>	<p>高橋 安 保</p>

	<p>を行い、指導者および教員、他の学生とディスカッションを通して洞察を深める。</p> <p>6. 具体的には実習要項に記載する。</p>			
--	--	--	--	--

教科書	<p>自身で重要と判断した図書を3冊挙げること。 以下には、精神看護学特論で提示した図書を参考図書とする。</p> <p>1) 野末聖香, 宇佐美しおり, 指針看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会 2) スチュアート, 精神看護—原理と実践, エルゼビアジャパン 3) 野川道子 (編集), 看護のための中範囲理論, メジカルフレンド社 4) 南裕子他, セルフケア理論と看護実践, へるす出版</p>
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学実習Ⅳ	科目英語表記	Advanced Psychiatric Nursing PracticeⅣ		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	精神保健看護のなかでも特に専門性を必要とする分野および領域における、直接援助の機会をもつことなどにより、精神看護専門看護師に必要な実践能力を養成する。 学生が卒業後に専門性を発揮すると予想される分野に応じて、リエゾン精神看護および地域精神看護の領域から経験を積む機会とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 直接および間接に得られる情報や関係形成について、事故の認識を言語によって表面化することができる。 2. 総合病院あるいは地域精神保健の現場で、精神的支援を必要とするクライアントの周囲にいる人々との関わりを通して、クライアントがかかえる課題について、身体的、精神的、社会的観点から、総合的にアセスメントすることができる。 3. 明らかになったクライアントの課題をもとに、倫理的視点や権利擁護の視点を踏まえて、精神的側面の安寧と回復を促進するような専門的な看護援助を実践できる。 4. 医療機関あるいは地域精神保健機関において、他職種と連携を取りながら、クライアントのサポートネットワークを形成する方向の支援を立案することができる。 5. 実習を通して、精神的援助を必要とするクライアントがおかれた状況についての理解を深めるとともに、自らの看護実践を振り返り、明らかになった課題について学術的視点から探求することができる。 				
成績評価方法	<p>成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。 特に精神的治療およびケアを必要とする人に関するアセスメントと援助に関する内容を評価する。 評価の割合・・・実習要項に記載するがおおむね以下のとおりとする。</p> <p>事前レポート、事後レポート・・・30% 実習記録・・・40% カンファレンス（参加度や理論化（概念化）の程度）・・・30%</p>				
成績評価基準	<p>評価方法と基準：実習要項に記載する。</p> <p>評価の割合・・・実習要項に記載するがおおむね以下のとおりとする。 事前レポート、事後レポート（実習目的の理解と学習目標への対応の理解など）・・・30% 実習記録（経験の明確化など）・・・40% カンファレンス（参加度や理論化（概念化）の程度）・・・30%</p>				
授業形式	<p>実習 実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。 教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。</p> <p>カンファレンスは原則的に対面で行うが、実習目的や学習成果を損なわない場合には遠隔で行う場合もあり得る。</p>				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題に沿って、実習の目標、内容、方法について計画する。 2. 自らの関心や問題意識に沿って、リエゾン精神看護および地域精神看護の観点で援助を必要とする2～3事例（個人あるいは集団）を担当し、これまで習得した知識や技法にもとづき、専門的看護援助を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間：原則として、2年次の5月から8月までの4ヶ月間のうち、水・木曜日あるいは木・金曜日を5週間（全10日）。 2. 実習場所： *リエゾン精神看護・・・山形大学医学部附属病院、みやぎ県南中核病院 *地域精神看護・・・特定非営利活動法人 相双に新しい精神保健医療福祉システムをつくる会 訪問看護ステーション など 3. 実習時間：原則として、 	実習（詳しくは実習要項に記載）	実習経験を記録やカンファレンスで理論化するなどして学習内容を精査すること。	高橋 安保

<p>3. クライアントとのかかわりの中で観察したことや自らの実践、フィールド全体の状況について、フィールドノーツに記録するとともに、アセスメントとケアプランの立案を適宜実施する。</p> <p>4. フィールドノーツなどの記録をもとに、指導教員や実習指導者からスーパービジョンを受ける。</p>	<p>日勤帯（8時15分～16時15分）とする。ただし、実習施設との相談により、実習時間の変更がありうる。実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明する。</p> <p>4. 学習内容： 事前学習の内容をもとに実習における報告と記録の方式を立案する。また、自分自身の関心とストレングスを明らかにし、指導教員および実習指導者との事前相談を行う。</p> <p>学んでいる理論や経験を統合して活用し、患者、家族、受け持ち看護師、看護チーム、多職種チームの状況をアセスメントして、リエゾン精神看護または地域精神看護の特徴に合わせた介入を組み立てる。実習指導者である精神看護専門看護師とのあいだに専門看護師の6つの役割を意識して構造だて、直接ケアやチーム支援を展開する。</p> <p>実習計画は教員および実習指導者とのあいだで指導を受けながら作成し、実習の進捗とともに学習過程を精査する。</p> <p>実習期間の最終盤には実習期間に経験した援助過程をプレゼンテーションし、発表の際に得た質問や意見を踏まえて考察士、実習レポートとする。</p> <p>* 詳細については、実習要項を参照のこと</p>			
--	--	--	--	--

教科書	(リエゾン精神看護) 野末聖香, リエゾン精神看護 (地域精神看護) 田中美恵子, 精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学実習Ⅴ	科目英語表記	Advanced Psychiatric Nursing PracticⅤ		
職名、担当教員氏名	教 授 安 保 寛 明 非常勤講師 高橋 葉子				
科目責任者氏名	安 保 寛 明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	実習若しくは実技	開講時期	通年	単位数	1単位
授業概要	精神保健看護の専門的立場で対応困難な精神保健看護上の問題を抱える事例および組織における援助が必要な課題に対するコンサルテーション・コーディネーションの実際を通して、精神専門看護師に必要な実践能力を培う。				
到達目標	1. コンサルテーションモデルを活用し、個人では対応が困難な精神保健看護上の問題を抱える事例のアセスメントと看護援助について考察する。 2. 実習施設におけるケースカンファレンスにおいて、アサーティブに意見を提示し、ディスカッションを促進することができる。 3. 職種や背景が異なる人とのコーディネーションが必要な事例に関して、組織全体のアセスメントを行い、援助方法について立案する。				
成績評価方法	成績評価方針：到達目標の達成度を総合的に評価する。特に精神看護専門看護師の役割に関する理解と、コンサルテーションリエゾンモデルに基づく人と組織に対する援助と実践上の意義の理解を重点評価する。 事前レポート、実習状況（カンファレンスでのプレゼンテーションを含む）、実習記録をもとに評価を行う。				
成績評価基準	評価方法と基準：実習要項に記載する。				
授業形式	実習をおこなう保健医療機関において、実習指導者の助言を得て実習目標の達成に関係する行動を行う。教員および実習指導者とのあいだで対話形式での査定を行う。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	1. 自らの課題に沿って、実習の目標、内容、方法を計画するとともに、実習記録用紙をコンサルテーション過程の記録用紙とするための作成を行う。 2. 専門看護師が行う実践を通じて役割について学びを深める。 3. 記録をもとに、指導教員や実習指導者からスーパービジョンを受ける。 4. 精神看護専門看護師の役割と機能について理解した内容を記録として記述する。	1. 実習期間：原則として、2年次の8月および9月のうち、週末を除く6日間（例：水曜日から翌週水曜日。） 2. 実習場所：みやぎ県南中核病院、東京都立松沢病院、訪問看護ステーションなど み、ほか 3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時15分～16時15分）とする。 4. 方法 精神看護専門看護師が行う実践を6つの機能に基づいて分析するとともに、自分自身がコンサルテーションモデルにおけるコンサルタントの機能をもつ。 *実習の詳細については、実習要項に記載する。	実習 （詳しくは実習要項に記載。カンファレンスを含む）	実習経験を理論などに照らし合わせて整理すること。	安 保

教科書	
参考書	以下の書籍などの中から、経験を整理すること。 1. 野末聖香, 片平好重, 吉住亜矢子, 他, リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために, 医歯薬出版 2. エドガー・H・シャイン, プロセス・コンサルテーション—援助関係を築くこと, 白桃書房 3. Ann B. Hamric, Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e, Saunders 4. 野末聖香, 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会

	<p>5. 南裕子監修, 宇佐美しおり, 精神科看護の理論と実践—卓越した看護実践を目指して, ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>6. 南裕子, 稲岡文昭, セルフケア概念と看護実践, へるす出版</p> <p>7. ピーター・ディヤング, インスー・キム・バーグ, 解決のための面接技法—ソリューション・フォーカストアプローチの手引き, 金剛出版</p> <p>8. 小谷英文, ダイナミック・コーチング—個人と組織の変革, PAS総合研究所</p> <p>9. チャールズラップ, リチャードゴスチャ, ストレngthモデル—リカバリー志向の精神保健福祉サービス, 金剛出版</p>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1 / 博士前期2 / 博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明: 研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	精神看護学課題研究	科目英語表記	Mental Health and Psychiatric. Nursing Problem Study		
職名、担当教員氏名	教授 安保 寛明				
科目責任者氏名	安保 寛明				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	精神看護CNS必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	2単位
授業概要	これまでの学修および看護実践で生じた関心をもとに、精神看護学における研究課題を見出し、その解決の方略を研究的視点で検討し、論文を作成する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの関心に基づき、精神看護において探求・解決すべき課題を焦点化できる。 2. 課題設定を行い、研究目的に適した研究方法を探求できる。 3. 研究計画を立案できる。 4. 収集したデータを分析し、論理的にまとめることができる。 5. 看護実践の改善・改革を具体的に提言できる。 				
成績評価方法	研究計画書作成や研究の実施状況、修士論文の内容、研究への態度等に基づき、指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院課題研究論文審査要綱に従って期日までに提出された課題論文は、課題研究論文審査委員による審査を受ける。				
成績評価基準	課題研究論文審査要綱などに記載する。				
授業形式	教員の講義と学生に事前に提示される課題に関連するプレゼンテーションをもとに、学生同士あるいは教員と知見の整理のための議論を行う。原則として遠隔授業。				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	文献検討 研究課題の探求 研究計画書作成 データ収集・分析 まとめ（論文作成） 発表	研究計画書の作成および期日までに提出 倫理審査委員会申請書の作成および倫理審査 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集・分析 考察 課題研究論文の作成および提出 中間発表会・研究発表会における成果の発表	講義と演習	文献検討 研究課題の探求 研究計画立案 データ分析 論文作成 プレゼンテーションの準備 関連する学会への参加	安保

教科書	授業中に指定する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士前期1／博士前期2／博士前期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	安保寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	看護学特別研究	科目英語表記	Specialized Graduate Research in Nursing		
職名、担当教員氏名	教授 菅原 京子 教授 遠藤 恵子 教授 遠藤 和子 教授 桂 晶子 教授 沼澤さとみ 教授 安保 寛明 教授 菊地 圭子 教授 中村 康香 准教授 鈴木 育子 准教授 今野 浩之				
科目責任者氏名	各教員				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士前期2年		
科目区分	専門	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	10単位
授業概要	院生が選択した看護学分野のいずれかの領域において、各自の研究課題について、研究のプロセスを踏み、研究を完成させ、修士論文を作成する。				
到達目標	1. 看護学分野における諸課題から自らの研究課題を導き出すことができる。 2. 看護学分野に関連する国内外の情報を批判的に吟味することができる。 3. 自らの研究課題に適した研究デザイン、研究方法を吟味し研究計画を立案することができ、且つ研究を遂行することができる。 4. 研究の遂行において、対象者への倫理的配慮ができる。 5. 得られた固有データを適切に分析・考察し、目的に沿った結論を導き出すことができる。 6. 研究結果を的確に表現し、他者に伝え、意見交換することができる。				
成績評価方法	授業への参加度：40% 研究の実施、論文作成、発表：60% 指導教員と副指導教員が総合的に評価する。なお、山形県立保健医療大学大学院修士論文審査要綱に従って期日までに提出された修士論文は、学位論文審査委員による審査を受ける。				
成績評価基準	特に優れている：積極的に授業に取り組み、十分検討した研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら研究を実施し、優れた論文を作成し、研究成果を的確に発表できる。 優れている：積極的に授業に取り組み、十分検討した研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら研究を実施し、論文を作成し、研究成果を的確に発表できる。 良好である：積極的に授業に取り組み、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら研究を実施し、論文を作成し、研究成果を発表できる。 最低限の到達：積極的ではないが授業に取り組み、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら研究を実施し、論文を作成し、研究成果を発表できる。 目標に達していない：倫理的配慮を行った研究、論文作成、研究成果の発表ができない。				
授業形式	対面授業または遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
-	研究計画書作成 倫理審査委員会申請書の作成 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 論文の作成 中間発表会・研究発表会における成果の発表	研究計画書作成 倫理審査委員会申請書の作成 研究協力施設との調整、研究協力依頼 データ収集 データ分析・考察 論文の作成 中間発表会・研究発表会における成果の発表	討議 研究 プレゼンテーション	研究計画作成や研究遂行に必要な学習	全員

教科書	指導教員の指示に従ってください。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの	博士前期1／博士前期2／博士前期3

関連	
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菅原 京子：研究室 7 ksugawara@yachts.ac.jp 遠藤 恵子：研究室20 kendo@yachts.ac.jp 遠藤 和子：研究室13 kaendo@yachts.ac.jp 桂 晶子：研究室 9 skatusra@yachts.ac.jp 沼澤さとみ：研究室11 snumazawa@yachts.ac.jp 安保 寛明：研究室15 hambo@yachts.ac.jp 菊地 圭子：研究室 5 kkikuchi@yachts.ac.jp 中村 康香：研究室 2 ynakamura@yachts.ac.jp 鈴木 育子：研究室 8 isuzuki@yachts.ac.jp 今野 浩之：研究室17 hkonno@yachts.ac.jp
備考	